

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く

2009 年夏のボーナスと 家計の実態調査

～ “ わが家の生活防衛策 ” 第 18 弾 ～

2009 年 7 月



損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社

<目次>

・調査概要	1
1．調査の目的	2
2．調査の実施要領	2
3．回答者及び回答者世帯の基本属性	3
・調査結果	7
〔1〕この夏のボーナス	8
1．この夏のボーナスの手取り額	8
2．昨年夏のボーナスとの比較	10
3．ボーナスの今後の受給見通し	12
4．ボーナスの主な使い道	14
5．ボーナスが減って諦めたこと	16
6．ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額	19
7．ボーナスの中から妻がもらった小遣いの額	20
8．臨時ボーナスをあげたいと思う人	22
〔2〕わが家の家計	23
1．現状での家計の苦しさ	23
2．今後の家計の見通し	25
〔3〕不況とわが家の生活	27
1．夫に内緒の資産の有無	27
2．夫に内緒の資産の額	28
3．夫に内緒の資産の増減	30
4．夫に内緒の資産が増えた理由	32
5．夫に内緒の資産が減った理由	33
6．不況の実感	34
7．不況だと感じる時	36
8．夫の勤務先の業績	38
9．勤務先の業績の悪さが生活や家計に及ぼす影響	39
10．景気の回復予想時期	41
〔4〕生活にまつわる話	42
1．サラリーマンの昼食の弁当	42
2．夫に手作り弁当を持たせる頻度	43
3．夫に手作り弁当を持たせ始めた時期	44
4．夫に手作り弁当を持たせる理由	45
5．弁当と夫のお小遣い	46
6．節約や倹約の検討をしている内容	47
7．割安感のあるものの経験率や経験意向	49
8．今年購入した中で最も高額なもの	51
9．お金で買えない大切にしているもの	52
10．主婦が憧れる（今なってみたい）職業	53

. 調査概要

1. 調査の目的

損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社では、家計を切り盛りしている主婦がわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのかを探るため、2002年3月からサラリーマンの夫を持つ主婦を対象に“わが家の生活防衛策シリーズ”と題して家計の実態調査を実施してまいりました。

18回目となる今回は、2009年夏に受給した夫のボーナスに対する主婦の意識や実態、また、未曾有の不況と言われる2009年のサラリーマン世帯の家計状況や生活防衛策などを明らかにすることを目的に「サラリーマン世帯の主婦500名に聞く、ボーナスと家計の実態調査」を実施しました。

2. 調査の実施要領

(1) 調査対象及びサンプル数

民間企業に勤めるサラリーマン世帯の20歳から59歳の主婦500人

< サンプル配分 >

合計	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳
500	125	125	125	125

(2) 調査方法

インターネット調査

(3) 調査時期

平成21年6月12日～6月15日

(4) 調査項目

- ・この夏のボーナスの手取り額、昨年との増減比較、ボーナスの今後の増減見通し
- ・ボーナスの主な使い道
- ・夫に渡した小遣いの額と妻がもらった小遣いの額
- ・臨時ボーナスをあげたいと思う人
- ・家計の現状と今後の家計の見通し
- ・夫に内緒の資産の有無と資産額、不況の中での資産額の増減
- ・主婦が不況を実感する時
- ・夫の勤務先の業績と、業績の悪さが家計に及ぼす影響
- ・景気回復の予想時期
- ・サラリーマンの昼食
- ・割安感のあるものへの関心度と経験率
- ・今年購入したものの中で最も高額なもの
- ・お金で買えない大切にしているもの
- ・主婦が憧れる職業
- ・回答者と回答者世帯の基本属性（妻の職業、世帯構成、夫の役職、世帯年収、等）

3. 回答者及び回答者世帯の基本属性

上段：件数、下段：割合（単位＝％）

妻の年齢

	サンプル数	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	35 ～ 39 歳	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳	50 ～ 54 歳	55 ～ 59 歳	平均 （歳）
全 体	500 100.0	3 0.6	122 24.4	63 12.6	62 12.4	75 15.0	50 10.0	96 19.2	29 5.8	39.6

妻の職業

	サンプル数	正 規 有 職	パ ー ト	専 業 主 婦	
全 体	500 100.0	101 20.2	121 24.2	278 55.6	
妻 の 年 代	20代	125 100.0	38 30.4	26 20.8	61 48.8
	30代	125 100.0	19 15.2	29 23.2	77 61.6
	40代	125 100.0	19 15.2	35 28.0	71 56.8
	50代	125 100.0	25 20.0	31 24.8	69 55.2

夫の年代

	サンプル数	20 代	30 代	40 代	50 歳 以 上	平均 （歳）	
全 体	500 100.0	79 15.8	159 31.8	123 24.6	139 27.8	41.4	
妻 の 年 代	20代	125 100.0	77 61.6	45 36.0	3 2.4	- -	29.1
	30代	125 100.0	2 1.6	105 84.0	17 13.6	1 0.8	36.4
	40代	125 100.0	- -	8 6.4	99 79.2	18 14.4	45.8
	50代	125 100.0	- -	1 0.8	4 3.2	120 96.0	54.5

夫の役職

	サンプル数	役 職 な し	係 長 ・ 主 任	課 長 ク ラ ス	部 以 上 ク ラ ス
全 体	500 100.0	222 44.4	130 26.0	90 18.0	58 11.6
妻 の 年 代	20代	125 100.0	95 76.0	28 22.4	1 0.8
	30代	125 100.0	70 56.0	44 35.2	11 8.8
	40代	125 100.0	32 25.6	39 31.2	35 28.0
	50代	125 100.0	25 20.0	19 15.2	43 34.4

夫の勤務先の業種

		サンプル数	水産業・農林・	建設業	製造業	電気・ガス業	運輸業・情報通	商業	金・サービス業・不動産
全 体		500 100.0	3 0.6	33 6.6	192 38.4	32 6.4	60 12.0	49 9.8	131 26.2
妻の年代	20代	125 100.0	1 0.8	9 7.2	47 37.6	3 2.4	20 16.0	12 9.6	33 26.4
	30代	125 100.0	-	9 7.2	43 34.4	15 12.0	13 10.4	7 5.6	38 30.4
	40代	125 100.0	1 0.8	7 5.6	51 40.8	5 4.0	16 12.8	14 11.2	31 24.8
	50代	125 100.0	1 0.8	8 6.4	51 40.8	9 7.2	11 8.8	16 12.8	29 23.2

世帯構成

		サンプル数	夫婦のみ	夫婦と子	3世代同居	親と子夫婦
全 体		500 100.0	132 26.4	319 63.8	37 7.4	12 2.4
妻の年代	20代	125 100.0	46 36.8	72 57.6	5 4.0	2 1.6
	30代	125 100.0	36 28.8	80 64.0	9 7.2	-
	40代	125 100.0	25 20.0	84 67.2	11 8.8	5 4.0
	50代	125 100.0	25 20.0	83 66.4	12 9.6	5 4.0

扶養中の子供(経済的に独立していない子供)の有無

		サンプル数	いる	いない
全 体		500 100.0	323 64.6	177 35.4
妻の年代	20代	125 100.0	71 56.8	54 43.2
	30代	125 100.0	87 69.6	38 30.4
	40代	125 100.0	92 73.6	33 26.4
	50代	125 100.0	73 58.4	52 41.6

住居形態

		サンプル数	一戸建て持ち家	一戸建て借家	分譲集合住宅	賃貸集合住宅	社宅・寮	*持ち家
全体		500 100.0	209 41.8	15 3.0	111 22.2	144 28.8	21 4.2	320 64.0
妻の年代	20代	125 100.0	30 24.0	7 5.6	12 9.6	71 56.8	5 4.0	42 33.6
	30代	125 100.0	44 35.2	4 3.2	26 20.8	42 33.6	9 7.2	70 56.0
	40代	125 100.0	61 48.8	2 1.6	38 30.4	21 16.8	3 2.4	99 79.2
	50代	125 100.0	74 59.2	2 1.6	35 28.0	10 8.0	4 3.2	109 87.2

住宅ローンの有無

		サンプル数	ある	ない
全体		500 100.0	234 46.8	266 53.2
妻の年代	20代	125 100.0	34 27.2	91 72.8
	30代	125 100.0	65 52.0	60 48.0
	40代	125 100.0	77 61.6	48 38.4
	50代	125 100.0	58 46.4	67 53.6

世帯年収(税込み)

		サンプル数	400万円未満	400万円～600万円未満	600万円～800万円未満	800万円～1,000万円未満	1,000万円以上	平均(万円)
全体		500 100.0	36 7.2	138 27.6	121 24.2	95 19.0	110 22.0	742.0
妻の年代	20代	125 100.0	21 16.8	58 46.4	26 20.8	14 11.2	6 4.8	581.6
	30代	125 100.0	12 9.6	54 43.2	36 28.8	15 12.0	8 6.4	624.8
	40代	125 100.0	1 0.8	16 12.8	37 29.6	33 26.4	38 30.4	845.6
	50代	125 100.0	2 1.6	10 8.0	22 17.6	33 26.4	58 46.4	916.0

居住地

		サ ン プ ル 数	北 海 道	東 北	関 東	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州 ・ 沖 縄
全 体		500 100.0	23 4.6	17 3.4	230 46.0	74 14.8	109 21.8	17 3.4	5 1.0	25 5.0
妻 の 年 代	20代	125 100.0	6 4.8	3 2.4	53 42.4	20 16.0	27 21.6	6 4.8	2 1.6	8 6.4
	30代	125 100.0	6 4.8	6 4.8	48 38.4	25 20.0	28 22.4	5 4.0	2 1.6	5 4.0
	40代	125 100.0	4 3.2	3 2.4	67 53.6	19 15.2	24 19.2	3 2.4	-	5 4.0
	50代	125 100.0	7 5.6	5 4.0	62 49.6	10 8.0	30 24.0	3 2.4	1 0.8	7 5.6

. 調査結果

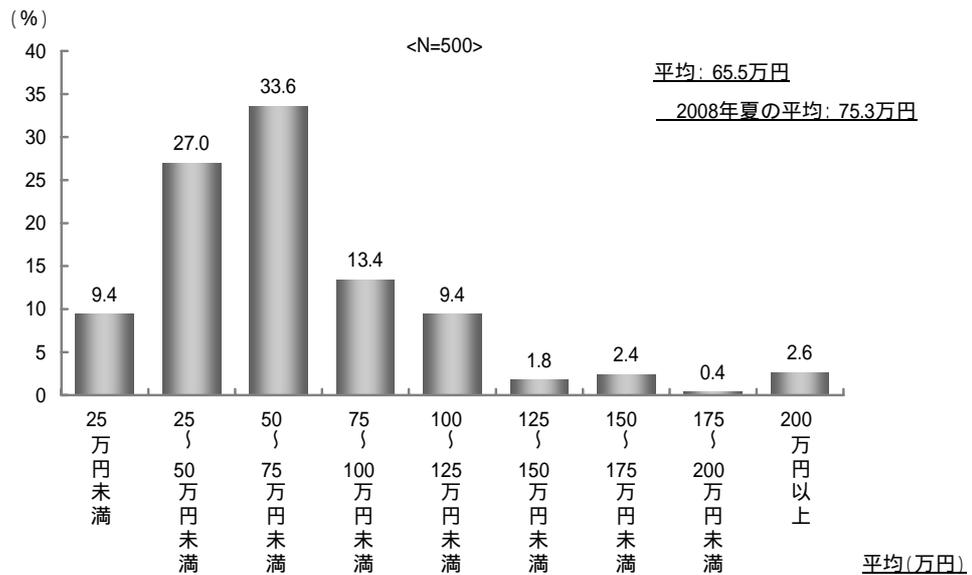
〔 1 〕 この夏のボーナス

『この夏のボーナス』とは 2009 年夏に夫が受給したボーナスを指し、奥様やお子様など他のご家族が受給したボーナスは含みません。

1. この夏のボーナスの手取り額

「50～75万円未満」(33.6%)が3割強、「25～50万円未満」(27.0%)が3割弱を占める。平均は65.5万円。

図 1. この夏のボーナスの手取り額



夫の年代	20代 <n=79>	平均(万円)									平均(万円)
		25万円未満	25～50万円未満	50～75万円未満	75～100万円未満	100～125万円未満	125～150万円未満	150～175万円未満	175～200万円未満	200万円以上	
20代 <n=79>	16.5	44.3	32.9	5.1	-	-	-	-	-	1.3	47.2
30代 <n=159>	15.1	35.8	36.5	8.8	3.1	0.6	-	-	-	-	47.0
40代 <n=123>	3.3	16.3	38.2	17.9	17.1	0.8	4.1	-	-	2.4	78.7
50歳以上 <n=139>	4.3	16.5	26.6	19.4	15.1	5.0	5.0	1.4	-	6.5	85.5
役職の	役職なし <n=222>	13.5	37.8	40.1	6.3	0.9	-	0.5	-	0.9	48.5
	係長・主任 <n=130>	10.0	29.2	30.0	20.8	7.7	0.8	-	-	1.5	63.4
	課長以上 <n=148>	2.7	8.8	27.0	17.6	23.6	5.4	7.4	1.4	6.1	92.9

夫が受給したこの夏のボーナスは手取り額でいくらだったのか、家計を預かるサラリーマン世帯の主婦に聞きました。

「50～75万円未満」(33.6%)が3割強を占めており、「25～50万円未満」(27.0%)が3割弱となっています。そのほか、「75～100万円未満」(13.4%)が1割強、「25万円未満」「100～125万円未満」(各9.4%)が1割弱などとなっています。

平均金額は65.5万円です。

- 夫の年代別に見ると、20代は「25～50万円未満」(44.3%)が4割強、「50～75万円未満」(32.9%)が3割強を占めており平均は47.2万円、30代は「50～75万円未満」(36.5%)と「25～50万円未満」(35.8%)がともに3割強を占め平均は47.0万円です。一方、40代 50歳以上は「50～75万円未満」(38.2%、26.6%)が最

も多いものの、「75～100万円未満」(17.9%、19.4%)、「100～125万円未満」(17.1%、15.1%)も少なくなく、平均金額は40代が78.7万円、50歳以上は85.5万円です。ほぼ年齢とともに高額となる傾向を示しています。

- 夫の役職別に見ると、役職なしは「50～75万円未満」(40.1%)と「25～50万円未満」(37.8%)がそれぞれ4割前後を占め平均は48.5万円、係長・主任は「50～75万円未満」(30.0%)と「25～50万円未満」(29.2%)がほぼ3割、「75～100万円未満」(20.8%)が2割を占め平均は63.4万円となっています。一方、課長以上は「50～75万円未満」(27.0%)と「100～125万円未満」(23.6%)がともに2割台、「75～100万円未満」(17.6%)が2割弱などと比較的分散しており、平均は92.9万円です。

【ご参考】

地域別に見ると、関東が最も高額で75.6万円、近畿が60.6万円などとなっています。なお、サンプル数が少ないためご参考までですが、九州・沖縄は65.5万円と、関東に次いで高額です。一方、最も低額なのは中国・四国の45.1万円です。

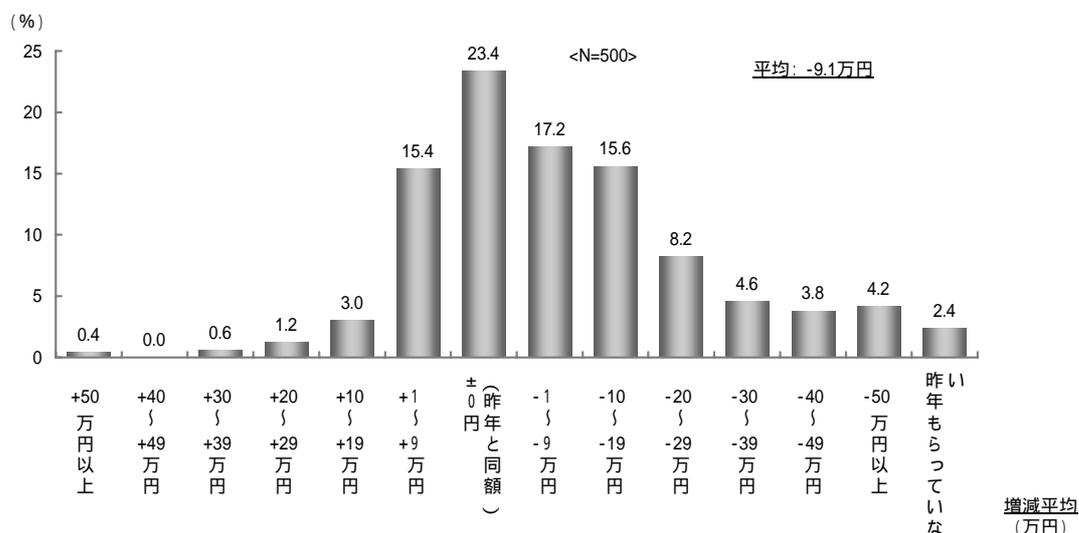
	サンプル数	平均金額 (万円)
北海道・東北	40	55.1
関東	230	75.6
中部	74	53.3
近畿	109	60.6
中国・四国	22	45.1
九州・沖縄	25	65.5

2. 昨年夏のボーナスとの比較

以下に示す増減金額は、今回の調査対象者の夫の受給額が昨年の受給額に対してどれだけ増減したかを表すものであり、昨年当社が行った調査結果と比較したものではありません。

『減った』(53.6%)が半数強を占め、『増えた』(20.6%)は2割。平均は-9.1万円。

図 2. この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較



夫の年代	増減額 (万円)															増減平均 (万円)
	+50以上	+40~49	+30~39	+20~29	+10~19	+1~9	±0 (昨年と同額)	-1~9	-10~19	-20~29	-30~39	-40~49	-50以上	昨年もらっていない		
20代 <n=79>	-	-	-	1.3	2.5	29.1	19.0	19.0	11.4	7.6	2.5	2.5	-	5.1	-4.7	
30代 <n=159>	-	-	0.6	0.6	5.0	20.8	19.5	18.9	16.4	6.3	1.9	5.0	0.6	4.4	-6.3	
40代 <n=123>	-	-	0.8	1.6	1.6	6.5	22.8	14.6	18.7	12.2	10.6	3.3	7.3	-	-14.5	
50歳以上 <n=139>	1.4	-	0.7	1.4	2.2	9.4	30.9	16.5	14.4	7.2	3.6	3.6	7.9	0.7	-9.9	
役職の	役職なし <n=222>	-	-	-	0.5	4.1	23.4	22.5	18.9	15.8	5.4	2.3	1.8	1.4	4.1	-5.3
	係長・主任 <n=130>	-	-	0.8	-	3.1	9.2	17.7	25.4	16.2	11.5	4.6	7.7	1.5	2.3	-11.6
課長以上 <n=148>	1.4	-	1.4	3.4	1.4	8.8	29.7	7.4	14.9	9.5	8.1	3.4	10.8	-	-12.6	

では、この夏のボーナスの手取り額は昨年の夏のボーナスと比べてどれくらい増えたり減ったりしたのでしょうか。昨年夏のボーナスと比較した増減額を聞きました。

まず、増えたか減ったかを見ると、『減った』(53.6%)が半数強を占めており、『増えた』(20.6%)は2割にとどまっています。「±0円(昨年と同額)」(23.4%)は2割強です。

次に、増減の額を見ると、『増えた』の中では「+1~9万円」(15.4%)が1割強を示しています。一方、『減った』の中では「-1~9万円」(17.2%)と「-10~19万円」(15.6%)がそれぞれ1割強を占め、「-20~29万円」(8.2%)も1割弱と少なくありません。

増減額の平均は-9.1万円で、昨年よりも大きく減額しています。

- 夫の年代別に見ると、20代は「+1~9万円」(29.1%)が3割弱を占めていますが、『増えた』(32.9%)は3割強にとどまり、『減った』(43.0%)の方が上回っています。30代も「+1~9万円」(20.8%)が2割を示していますが、『増えた』(27.0%)は3割弱にすぎず、『減った』(49.1%)がほぼ半数を占めています。40代 50歳以上は『増えた』(10.6%、15.1%)が1割強にすぎず、40代は『減った』(66.7%)

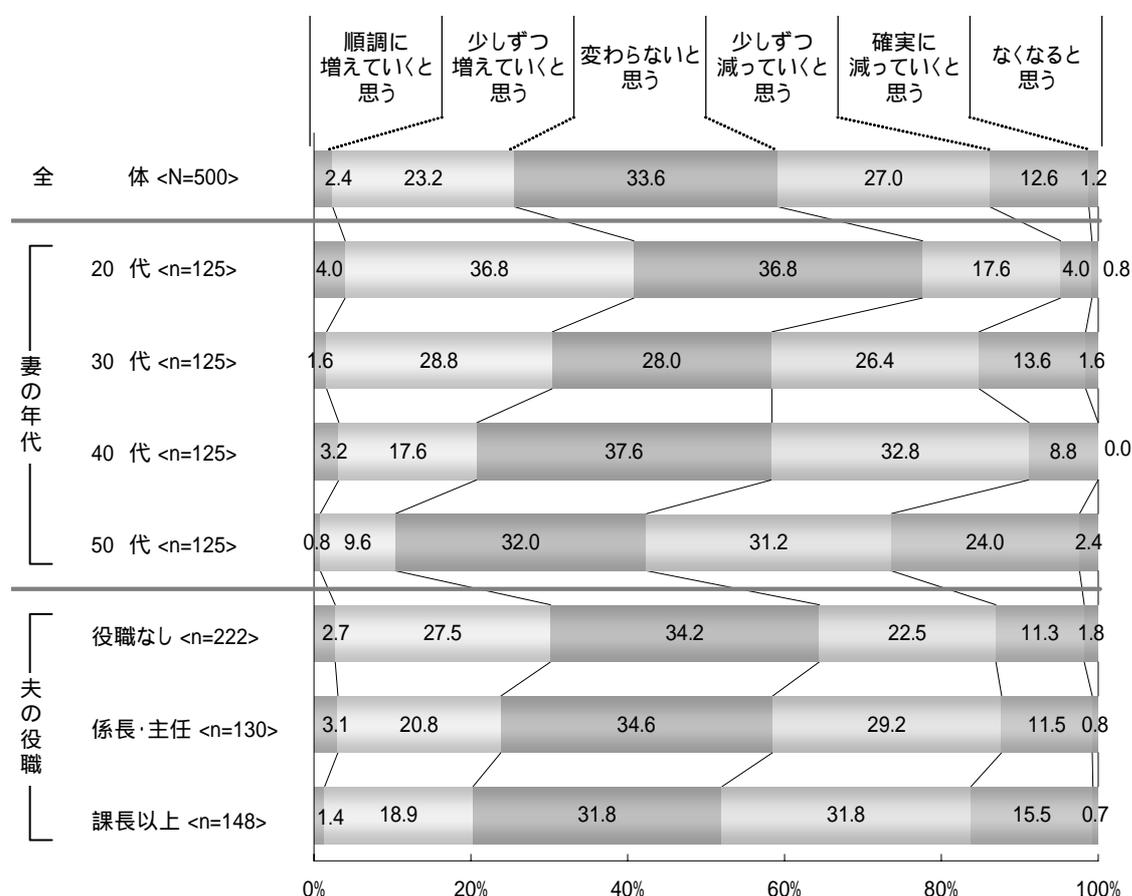
が7割弱、50歳以上も『減った』(53.2%)が半数強を占めており「±0円(昨年と同額)」(30.9%)も3割を示しています。増減額の平均は、20代が-4.7万円、30代が-6.3万円、40代が-14.5万円、50歳以上が-9.9万円と、すべての年代でマイナスとなっており、なかでも40代の落ち込みがとりわけ大きくなっています。

- 夫の役職別に見ると、役職なしは『増えた』(27.9%)が3割弱で、『減った』(45.5%)が4割強を占めており、増減額の平均は-5.3万円となっています。一方、係長・主任と課長以上は『増えた』(13.1%、16.2%)はともに1割強にとどまり、『減った』(66.9%、54.1%)が半数を超えています。増減額の平均は係長・主任が-11.6万円、課長以上が-12.6万円と、大きく減額しています。なお、課長以上では「-50万円以上」(10.8%)が1割を占めています。

3. ボーナスの今後の受給見通し

「少しずつ減っていくと思う」(27.0%)が3割弱を占めるなど『減っていくと思う』(40.8%)が4割。『増えていくと思う』(25.6%)は2割強。

図 3 . ボーナスの今後の受給見通し



夫のボーナスは今後どうなっていくと主婦は見通しているのでしょうか。夫のボーナスの今後の受給見通しについて聞きました。

「変わらないと思う」(33.6%)が3割強を占めていますが、「少しずつ減っていくと思う」(27.0%)や「確実に減っていくと思う」(12.6%)との見通しも多く、「なくなると思う」(1.2%)を合わせた『減っていくと思う』(40.8%)が4割を占めています。一方、「少しずつ増えていくと思う」(23.2%)は2割強で、「順調に増えていくと思う」(2.4%)を合わせた『増えていくと思う』(25.6%)は4人に1人程度となっています。

- 妻の年代別に見ると、20代は「少しずつ増えていくと思う」(36.8%)と「順調に増えていくと思う」(4.0%)を合わせた『増えていくと思う』(40.8%)が4割を占めており、『減っていくと思う』(22.4%)を上回っています。しかし、30~50代はいずれも『減っていくと思う』が『増えていくと思う』を上回っており、年齢の高い人ほどその差が大きくなっています。なかでも50代は「確実に減っていくと思う」

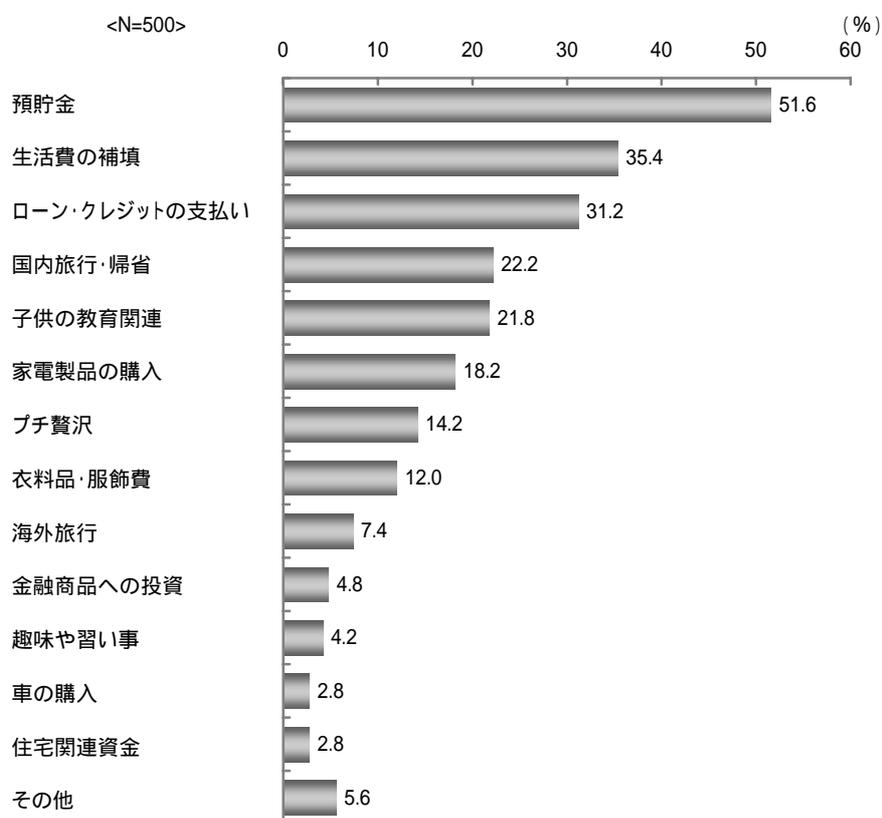
(24.0%) がとりわけ多く、『減っていくと思う』(57.6%) が 6 割弱を占めて『増えていくと思う』(10.4%) を大きく上回っています。

- 夫の役職別に見ると、すべての役職で『減っていくと思う』が『増えていくと思う』を上回っており、なかでも役職の高い人ほどその差が大きくなっています。

4. ボーナスの主な使い道

「預貯金」(51.6%)が突出。「生活費の補填」(35.4%)、「ローン・クレジットの支払い」(31.2%)が続く。

図 4. この夏のボーナスの主な使い道【複数回答】



サラリーマン世帯ではこの夏のボーナスをどのようなことに使うのでしょうか。ボーナスの主な使い道をあげてもらいました。

最も多いのは「預貯金」(51.6%)で、半数強と突出しています。以下、「生活費の補填」(35.4%)、「ローン・クレジットの支払い」(31.2%)が3割強、「国内旅行・帰省」(22.2%)、「子供の教育関連」(21.8%)が2割強の割合で続いています。

表 1. 属性別に見た、この夏のボーナスの主な使い道【複数回答】

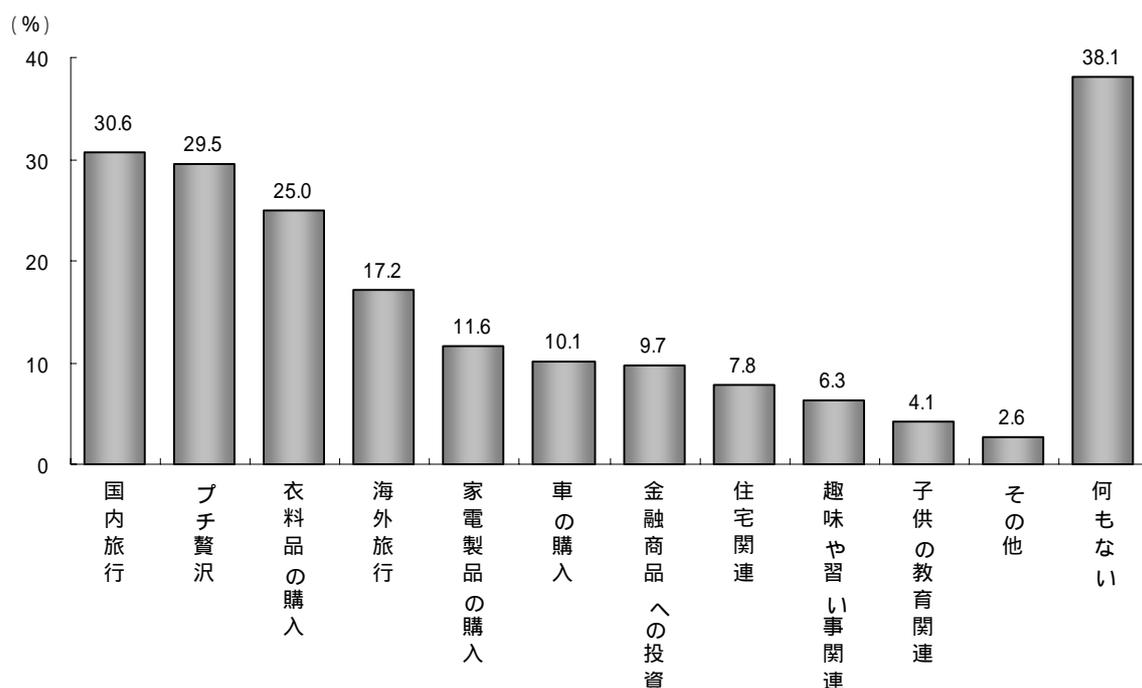
		サンプル数	預貯金	生活費の補填	ローンの支払い・クレジット	国内旅行・帰省	子供の教育関連	家電製品の購入	プチ贅沢	衣料品・服飾費	海外旅行	金融商品への投資	趣味や習い事	車の購入	住宅関連資金	その他
		(%)														
妻の年代	20代	125	60.0	29.6	27.2	16.8	8.8	20.8	17.6	18.4	8.0	1.6	5.6	4.0	1.6	4.0
	30代	125	57.6	40.0	32.0	20.8	18.4	20.0	16.8	10.4	5.6	3.2	4.0	1.6	5.6	5.6
	40代	125	44.0	35.2	37.6	32.0	32.8	12.0	12.0	8.8	7.2	6.4	3.2	3.2	2.4	6.4
	50代	125	44.8	36.8	28.0	19.2	27.2	20.0	10.4	10.4	8.8	8.0	4.0	2.4	1.6	6.4
子供	いる	323	46.4	39.3	38.1	23.2	31.9	17.6	12.4	12.4	5.6	4.3	4.3	2.8	4.0	3.7
	いない	177	61.0	28.2	18.6	20.3	3.4	19.2	17.5	11.3	10.7	5.6	4.0	2.8	0.6	9.0
ローン	ある	234	42.7	35.5	53.4	19.2	27.4	17.1	14.1	9.4	5.6	3.8	3.8	2.1	4.3	6.8
	ない	266	59.4	35.3	11.7	24.8	16.9	19.2	14.3	14.3	9.0	5.6	4.5	3.4	1.5	4.5
世帯年収	600万円未満	174	52.9	39.1	30.5	15.5	16.7	14.4	12.6	15.5	4.0	0.6	4.6	2.3	2.3	8.0
	600～800万円未満	121	46.3	36.4	37.2	24.0	22.3	22.3	16.5	7.4	5.0	1.7	3.3	5.0	4.1	4.1
	800～1,000万円未満	95	48.4	34.7	31.6	29.5	21.1	16.8	13.7	10.5	10.5	8.4	5.3	2.1	1.1	3.2
	1,000万円以上	110	58.2	29.1	25.5	24.5	30.0	20.9	14.5	12.7	12.7	11.8	3.6	1.8	3.6	5.5
受給額	50万円未満	182	51.1	38.5	26.4	14.8	13.7	12.6	13.2	11.0	4.9	1.1	3.3	1.1	2.2	6.0
	50～100万円未満	235	48.9	33.6	36.2	26.4	23.4	22.1	14.0	13.2	8.5	5.5	5.5	4.3	3.0	3.8
	100万円以上	83	60.2	33.7	27.7	26.5	34.9	19.3	16.9	10.8	9.6	10.8	2.4	2.4	3.6	9.6

- 妻の年代別に見ると、20代 30代 は「預貯金」(60.0%、57.6%)がほぼ6割を示しとりわけ多くなっています。そのほか、20代 は「衣料品・服飾費」(18.4%)、30代 は「生活費の補填」(40.0%)が他の年代を上回っています。一方、40代 は「ローン・クレジットの支払い」(37.6%)、「子供の教育関連」(32.8%)、「国内旅行・帰省」(32.0%)が他の年代を上回っています。
- 扶養中の子供の有無別に見ると、いない人 は「預貯金」(61.0%)が6割強を示し、いる人 (46.4%)を上回っています。一方、いる人 は「生活費の補填」(39.3%)、「ローン・クレジットの支払い」(38.1%)、「子供の教育関連」(31.9%)がいない人 (28.2%、18.6%、3.4%)を大きく上回っています。
- 住宅ローンの有無別に見ると、ない人 は「預貯金」(59.4%)がほぼ6割を示し、ある人 (42.7%)を大きく上回っています。そのほか、「国内旅行・帰省」(24.8%)、「衣料品・服飾費」(14.3%)などもわずかずつ上回っています。一方、ある人 は「ローン・クレジットの支払い」(53.4%)が半数を超えて最も多くなっています。また、「子供の教育関連」(27.4%)も ない人 (16.9%)を上回っています。
- 世帯年収別に見ると、1,000万円以上 は「預貯金」(58.2%)、「子供の教育関連」(30.0%)が他を上回っています。一方、600～800万円未満 は「ローン・クレジットの支払い」(37.2%)、「家電製品の購入」(22.3%)が他を上回り、「預貯金」(46.3%)は他を下回っています。また、「生活費の補填」は世帯年収が低いほど多くなっています。
- ボーナス受給額別に見ると、100万円以上 は「預貯金」(60.2%)、「子供の教育関連」(34.9%)、「プチ贅沢」(16.9%)、「金融商品への投資」(10.8%)、「海外旅行」(9.6%)などが他を上回っています。一方、50～100万円未満 は「ローン・クレジットの支払い」(36.2%)、「家電製品の購入」(22.1%)、「衣料品・服飾費」(13.2%)などが、50万円未満 は「生活費の補填」(38.5%)が他を上回っています。

5. ボーナスが減って諦めたこと

ボーナスが減って諦めたりランクを下げたりしたことが『ある』(61.9%)人は6割強。その内容は「国内旅行」(30.6%)、「プチ贅沢」(29.5%)、「衣料品の購入」(25.0%)など。

図 5. ボーナスが減って“諦めた”か“ランクを下げて行った”こと
(ボーナス支給額が昨年より減った人のみ)【複数回答】



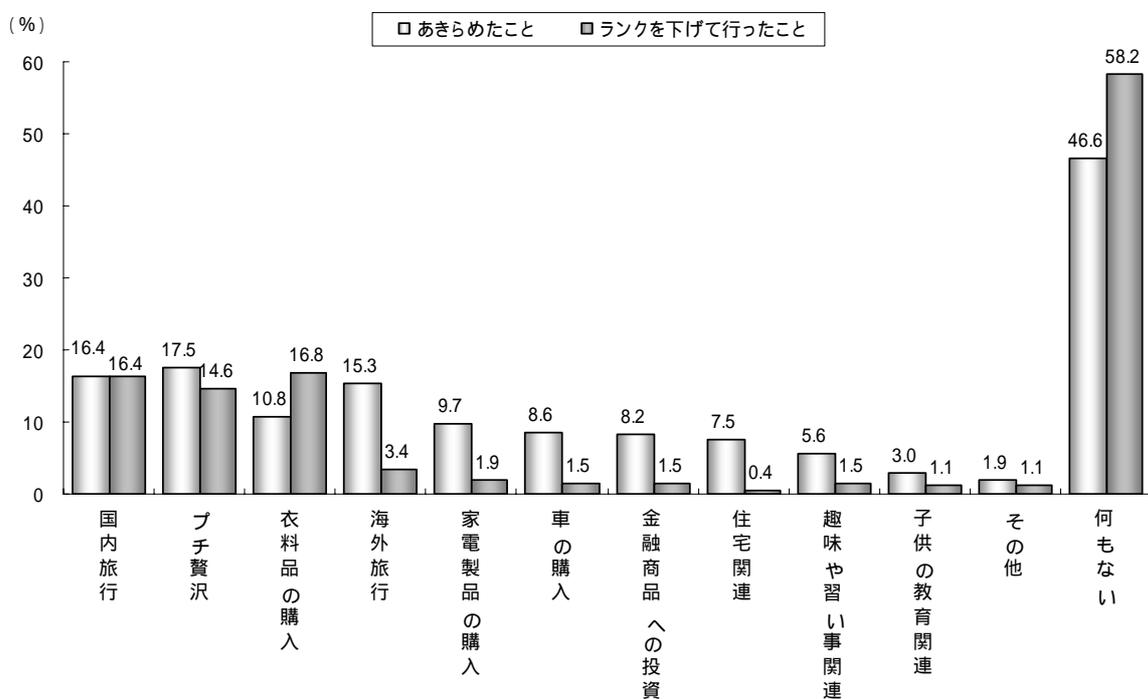
楽しみにしていたボーナスですが、実際に支給された額が減ってしまったためにどんなことを諦めざるを得なかったのでしょうか。この夏のボーナスが昨年夏より『減った』と回答した人(全体の53.6%)に、予定していたにもかかわらず“諦めたこと”と“ランクを下げて行ったこと”をそれぞれあげてもらいました。

まず、“諦めたこと”と“ランクを下げて行ったこと”のどちらかひとつでもあげた人の割合を見てみると、何らかのことが『ある』(61.9%)という人は6割を超えており、『何もない』(38.1%)は4割弱です。

“諦めた”か“ランクを下げたこと”の内容では、「国内旅行」(30.6%)が3割で最も多く、小差で「プチ贅沢」(29.5%)が続いています。以下、「衣料品の購入」(25.0%)、「海外旅行」(17.2%)、「家電製品の購入」(11.6%)、「車の購入」(10.1%)などとなっています。

なお、「家電製品」では具体的な品目として、「薄型テレビ」(14件)、「ブルーレイレコーダー」(5件)、「エアコン」「掃除機」「冷蔵庫」(各2件)などがあげられています。

図 6 . ボーナスが減って “ 諦めたこと ” と “ ランクを下げたこと ”
 (ボーナス支給額が昨年より減った人のみ) 【複数回答】



次に、ボーナスが減って “ 諦めたこと ” と “ ランクを下げたこと ” について、それぞれ見てみます。

“ 諦めたこと ” が何かしら 『ある』(53.4%) 人は半数を超えています。諦めたことで最も多いのは「プチ贅沢」(17.5%) で、ほかに「国内旅行」(16.4%) 「海外旅行」(15.3%) などがあげられています。

“ ランクを下げたこと ” が何かしら 『ある』(41.8%) 人は 4 割強となっています。ランクを下げたことで最も多いのは「衣料品の購入」(16.8%) で、そのほか「国内旅行」(16.4%) 「プチ贅沢」(14.6%) などがあげられています。

表 2. 属性別に見た、“諦めた”か“ランクを下げて行った”こと
(ボーナス支給額が昨年より減った人のみ)【複数回答】

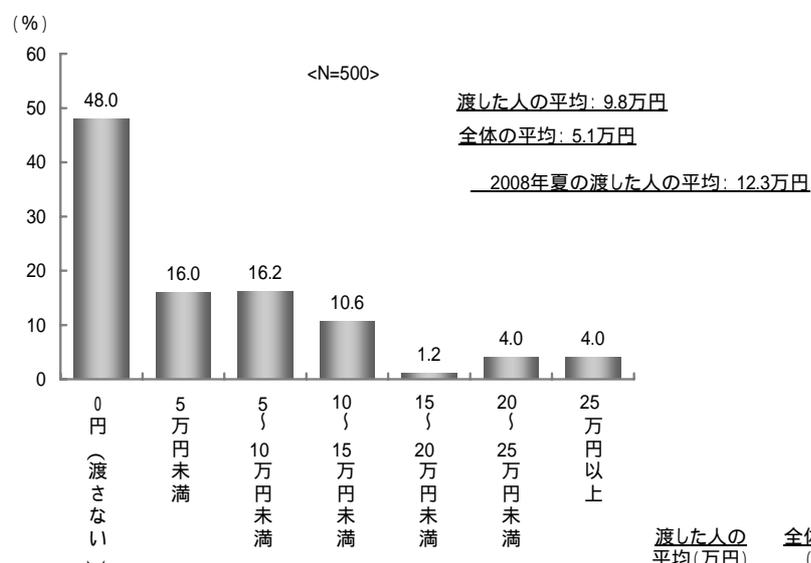
		国内旅行	プチ贅沢	衣料品の購入	海外旅行	家電製品の購入	車の購入	金融商品への投資	住宅関連	趣味や習い事関連	子供の教育関連	その他	何もない	*ある
妻の年代	20代	32.7	38.2	38.2	18.2	14.5	10.9	14.5	7.3	10.9	5.5	1.8	32.7	67.3
	30代	33.3	28.8	25.8	18.2	13.6	12.1	9.1	12.1	3.0	4.5	1.5	33.3	66.7
	40代	28.8	33.8	20.0	12.5	10.0	11.3	8.8	7.5	5.0	2.5	3.8	45.0	55.0
	50代	28.4	17.9	19.4	20.9	9.0	6.0	7.5	4.5	7.5	4.5	3.0	38.8	61.2
子供	いる	33.5	31.2	26.6	17.3	12.1	12.7	10.4	11.0	7.5	5.8	2.9	32.4	67.6
	いない	25.3	26.3	22.1	16.8	10.5	5.3	8.4	2.1	4.2	1.1	2.1	48.4	51.6
ボーナス減った額	< -1~9万円 >	29.1	30.2	18.6	17.4	14.0	11.6	9.3	8.1	9.3	7.0	2.3	36.0	64.0
	< -10~19万円 >	32.1	30.8	29.5	14.1	6.4	9.0	6.4	7.7	2.6	2.6	1.3	38.5	61.5
	< -20万円以上 >	30.8	27.9	26.9	19.2	13.5	9.6	12.5	7.7	6.7	2.9	3.8	39.4	60.6

- 妻の年代別に見ると、諦めたかランクを下げたことが何かしら『ある』人は 20代 30代 が 40代 50代 をやや上回っています。なかでも 20代 は「衣料品の購入」(38.2%) が 4割弱で他の年代を上回っています。
- 扶養中の子供の有無別に見ると、諦めたかランクを下げたことが何かしら『ある』人は いる人 (67.6%) が いない人 (51.6%) を上回っています。上位の「国内旅行」「プチ贅沢」「衣料品の購入」をはじめ全ての項目で いる人 が いない人 を上回っています。
- ボーナスの減った額別に見ると、 -10~19万円 -20万円以上 は「衣料品の購入」(29.5%、26.9%) が -1~9万円 (18.6%) を上回っています。

6. ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額

「渡さない(0円)」が48.0%にのぼり、『渡した』(52.0%)は半数強。渡した額は「5～10万円未満」(16.2%)、「5万円未満」(16.0%)、「10～15万円未満」(10.6%)がそれぞれ1割強。渡した人だけの平均金額は9.8万円。

図 7. ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額



		0円 (渡さない)	5万円未満	5～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～25万円未満	25万円以上	渡した人の平均(万円)	全体の平均(万円)
夫の年代	20代 <n=79>	60.8	19.0	13.9	2.5	-	1.3	2.5	8.6	3.4
	30代 <n=159>	50.9	21.4	17.0	5.0	0.6	1.3	3.8	8.8	4.3
	40代 <n=123>	48.8	13.8	15.4	12.2	0.8	4.9	4.1	9.5	4.9
	50歳以上 <n=139>	36.7	10.1	17.3	20.1	2.9	7.9	5.0	11.2	7.1
ボーナス受給額	50万円未満 <n=182>	57.7	24.7	12.1	2.7	1.1	-	1.6	5.1	2.2
	50～100万円未満 <n=235>	43.0	14.5	20.9	12.3	0.4	3.8	5.1	9.9	5.7
	100万円以上 <n=83>	41.0	1.2	12.0	22.9	3.6	13.3	6.0	16.6	9.8

今回のボーナスの中から夫に小遣いとして渡した金額を具体的に聞きました。

「渡さない(0円)」が48.0%にのぼり、『渡した』(52.0%)は半数強となっています。

夫に渡した金額は「5～10万円未満」(16.2%)、「5万円未満」(16.0%)、「10～15万円未満」(10.6%)がそれぞれ1割強となっています。

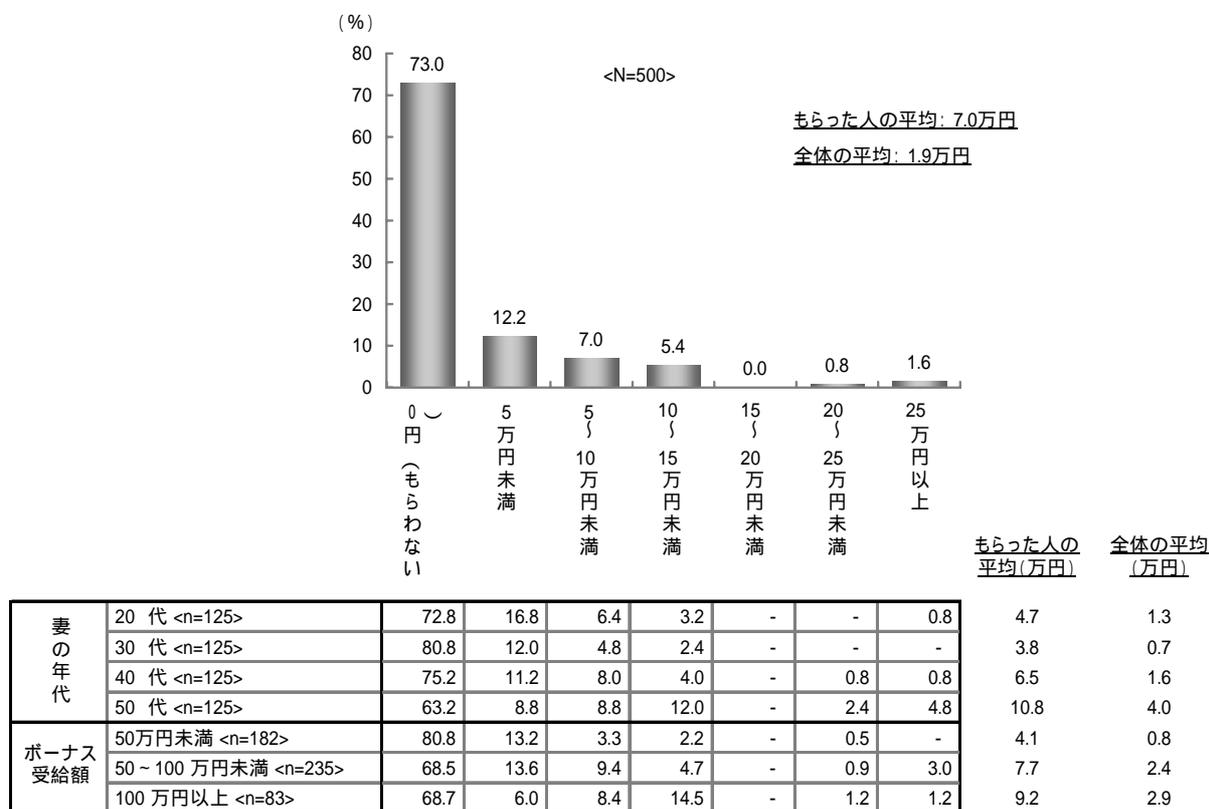
『渡した』人だけの平均金額は9.8万円です。ちなみに、「渡さない」を含めた全体の平均金額は5.1万円です。

- 夫の年代別に見ると、「渡さない」は若い人ほど多く、20代(60.8%)では6割を占めています。渡した人だけの平均金額は、20代が8.6万円、30代が8.8万円、40代が9.5万円、50歳以上が11.2万円となっており、年齢が高くなるにしたがって高額になっています。
- ボーナス受給額別に見ると、50万円未満では「渡さない」(57.7%)が半数を超えています。渡した金額は「5万円未満」(24.7%)が2割強を占め渡した人だけの平均金額は5.1万円、50～100万円未満では「5～10万円未満」(20.9%)が2割を占め平均金額は9.9万円、100万円以上では「10～15万円未満」(22.9%)が2割強を占め平均金額は16.6万円となっています。

7. ボーナスの中から妻がもらった小遣いの額

「もらわない(0円)」(73.0%)が圧倒的で、『もらった』(27.0%)は3割弱。もらった額は「5万円未満」(12.2%)、「5～10万円未満」(7.0%)、「10～15万円未満」(5.4%)など。もらった人だけの平均金額は7.0万円。

図 8 . ボーナスの中から妻がもらった小遣いの額



今回の夫のボーナスの中から妻は小遣いとしていくらくらいもらったのか具体的な金額を聞きました(有職主婦の場合、自分自身の収入からの小遣いは含めません)。

「もらわない(0円)」(73.0%)が圧倒的に多く、『もらった』(27.0%)は3割弱となっています。

妻がもらった金額は、「5万円未満」(12.2%)、「5～10万円未満」(7.0%)、「10～15万円未満」(5.4%)などとなっています。

『もらった』人だけの平均金額は7.0万円です。ちなみに、「もらわない」を含めた全体の平均金額は1.9万円です。

- 妻の年代別に見ると、30代は「もらわない」(80.8%)が8割強を占め、他の年代を上回っています。もらった人だけの平均金額は、20代が4.7万円、30代が3.8万円、40代が6.5万円、50代が10.8万円となっており、おおむね年齢が高くなるにしたがって高額になっていますが、30代は20代を下回っています。
- ボーナス受給額別に見ると、50万円未満は「もらわない」(80.8%)が8割を占

めています。もらった金額は「5万円未満」(13.2%)が1割強を占めもらった人だけの平均金額は4.1万円となっています。50~100万円未満では「5万円未満」(13.6%)と「5~10万円未満」(9.4%)がそれぞれ1割前後を占め平均金額は7.7万円、100万円以上では「10~15万円未満」(14.5%)が1割強を占め平均金額は9.2万円となっています。

8. 臨時ボーナスをあげたいと思う人

スポーツ界のトップは「イチロー」(107件)、芸能界のトップは「オードリー」(18件)、それ以外のトップは「辻井伸行」(22件)。

表 3. 臨時ボーナスをあげたいと思う人【分野ごとにそれぞれ1人】

順位	スポーツ界	件数	順位	芸能界	件数	順位	それ以外	件数
1	イチロー	107	1	オードリー	18	1	辻井伸行	22
2	石川遼	21	2	森光子	12	2	自分	6
3	田中将大	11	3	はんにゃ	9	3	橋下徹	5
4	WBC日本代表	7	4	草薙剛	7	4	鳩山邦夫	4
5	太田雄貴	6	"	島田紳助	7	5	母親	3
"	入江陵介	6	6	SMAP	6	"	舩添要一	3
7	原辰徳	5	"	水嶋ヒロ	6			
"	上村愛子	5	8	木村拓哉	5			
"	浅田真央	5	"	嵐	5			
10	クルム伊達公子	4	10	江口洋介	4			
"	内藤大助	4	"	佐藤隆太	4			
			"	間寛平	4			

2009年に大いに活躍した人やグループで臨時ボーナスをあげたいと思う人を、スポーツ界、芸能界、それ以外の分野に分けて自由にあげてもらいました。

スポーツ界では第1位に「イチロー」(107件)があげられており、全体でも他を圧倒してのトップとなっています。第2位には「石川遼」(21件)、第3位には「田中将大」(11件)があげられています。

芸能界では第1位に「オードリー」(18件)があげられています。第2位は「森光子」(12件)、第3位は「はんにゃ」(9件)となっています。

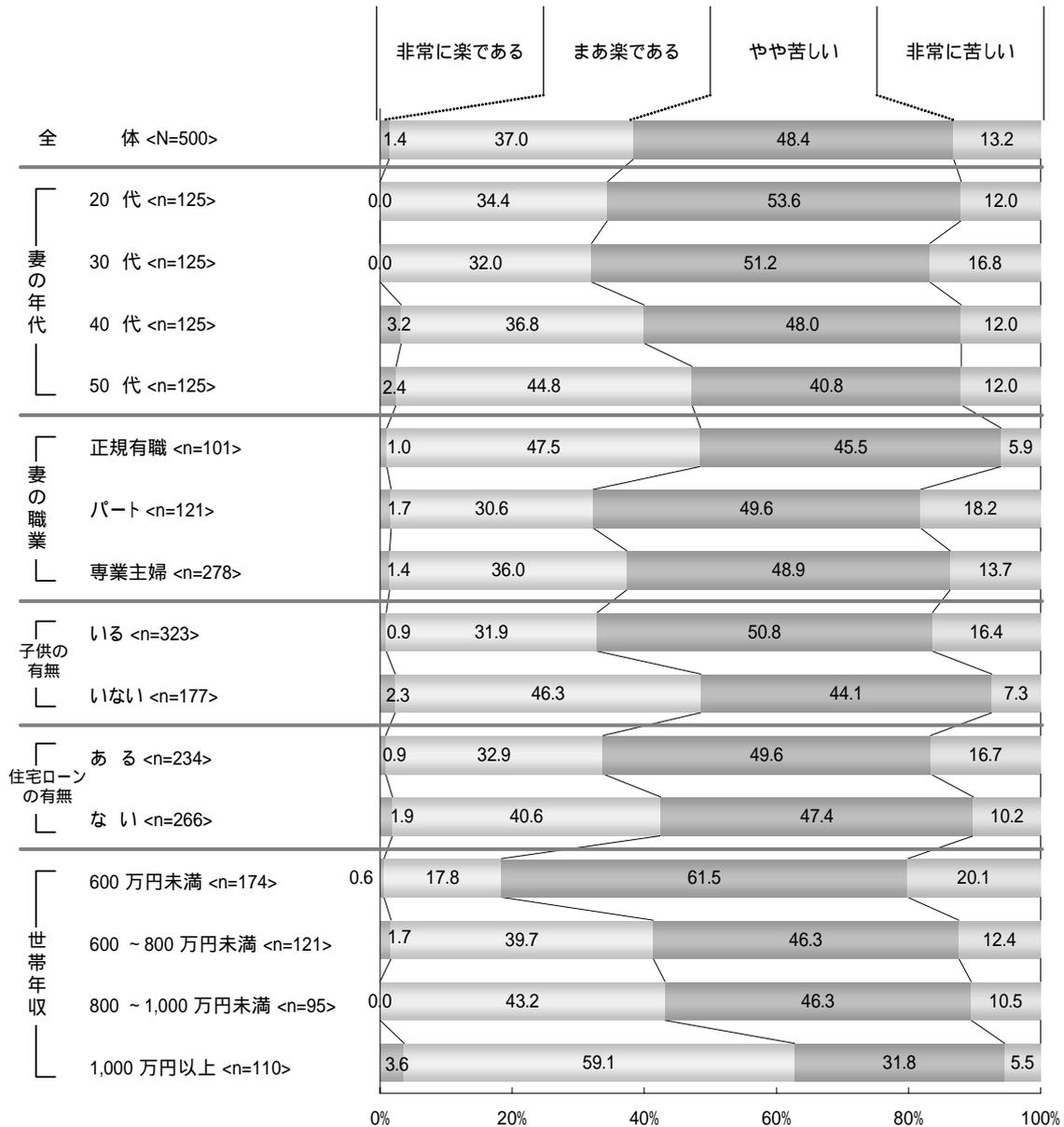
それ以外の分野ではピアニストの「辻井伸行」(22件)が最も多く、ほかには「自分」(6件)、「橋下徹」(5件)などがあげられています。

〔 2 〕 わが家の家計

1. 現状での家計の苦しさ

『 苦しい 』 (61.6%) が 6 割強を占め、『 楽である 』 (38.4%) は 4 割弱。

図 9 . 現状で家計は楽か苦しいか



家計をやりくりしている主婦は、現在の家計を楽と感じているのでしょうか、それとも苦しいと感じているのでしょうか。サラリーマン世帯の家計の現状に関する意識を聞きました。

「やや苦しい」(48.4%) が半数弱を占めており、「非常に苦しい」(13.2%) を合わせると『 苦しい 』 (61.6%) が 6 割強となり、「非常に楽である」(1.4%) と「まあ楽であ

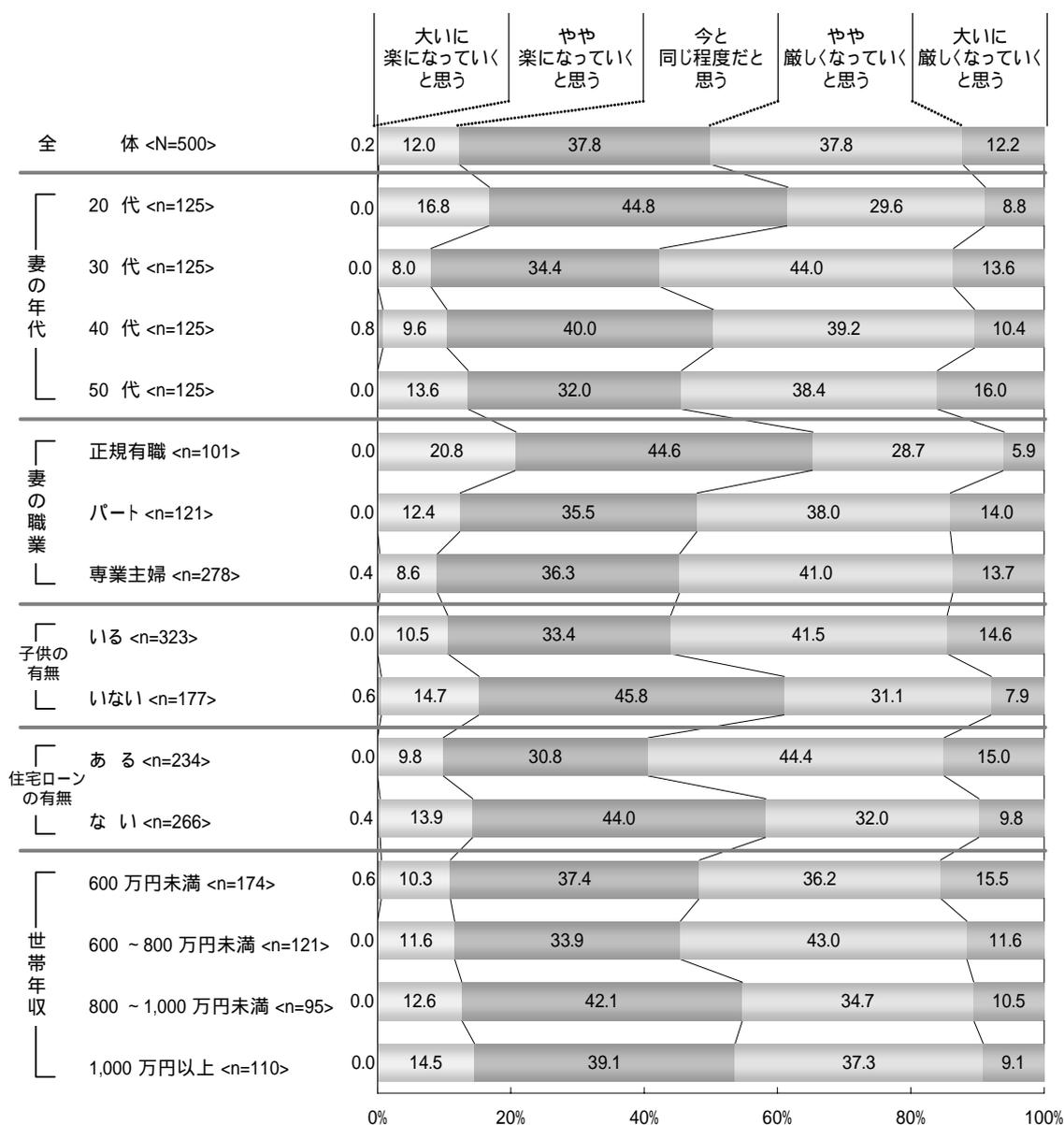
る」(37.0%)を合わせた『楽である』(38.4%)を大きく上回っています。

- 妻の年代別に見ると、20代 30代 40代 はいずれも「やや苦しい」(53.6%、51.2%、48.0%)が半数前後、「非常に苦しい」(12.0%、16.8%、12.0%)が1割強と『苦しい』が6割以上を占めていますが、50代 では『苦しい』(52.8%)と『楽である』(47.2%)にさほど大きな差はありません。
- 妻の職業別に見ると、正規有職 は『苦しい』(51.5%)と『楽である』(48.5%)がほぼ同じ割合ですが、パート 専業主婦 では『苦しい』(67.8%、62.6%)が6割強を占めており、『楽である』(32.2%、37.4%)は3割強にとどまっています。
- 扶養中の子供の有無別に見ると、いない人 は『苦しい』(51.4%)と『楽である』(48.6%)がほぼ同じ割合ですが、いる人 は『苦しい』(67.2%)が7割弱を占めており、『楽である』(32.8%)は3割強にとどまっています。
- 住宅ローンの有無別に見ると、ない人 は『苦しい』(57.5%)が6割弱、『楽である』(42.5%)は4割強ですが、ある人 は『苦しい』(66.2%)が7割弱を占め、『楽である』(33.8%)は3割強です。
- 世帯年収別に見ると、1,000万円以上 は『楽である』(62.7%)が6割強を占めていますが、800~1,000万円未満 600~800万円未満 では『楽である』(43.2%、41.3%)が4割強、600万円未満 (18.4%)では2割弱と、低額になるにしたがって『楽である』が少なくなっており、600万円未満 では「非常に苦しい」(20.1%)と「やや苦しい」(61.5%)を合わせた『苦しい』(81.6%)が8割強を占めています。

2. 今後の家計の見通し

『厳しくなっていく』(50.0%)が半数。『楽になっていく』(12.2%)は1割強。

図 10 . 今後の家計の見通し



家計は今後どのようなようになっていくと思うか、今後の見通しを聞いてみました。

「今と同じ程度だと思う」(37.8%)が4割弱を占めていますが、「やや厳しくなっていくと思う」(37.8%)も4割弱を占めており、「大いに厳しくなっていくと思う」(12.2%)を合わせると『厳しくなっていく』(50.0%)との見通しが半数を占めます。「大いに楽になっていくと思う」(0.2%)と「やや楽になっていくと思う」(12.0%)を合わせた『楽になっていく』(12.2%)との見通しは1割強に過ぎません。

- 妻の年代別に見ると、30代は「やや厳しくなっていくと思う」(44.0%)が4割強を占めるなど、『厳しくなっていく』(57.6%)が6割強を占めています。また、20代は「今と同じ程度だと思う」(44.8%)が4割強を占め、ただひとつ『厳しくなっていく』(38.4%)を上回っています。
- 妻の職業別に見ると、専業主婦パートは『厳しくなっていく』(54.7%、52.1%)が半数を超え、『楽になっていく』(9.0%、12.4%)は1割前後と、悲観的な見通しが大きく上回っています。一方、正規有職は「今と同じ程度だと思う」(44.6%)が4割強を占め、『厳しくなっていく』(34.7%)が3割強、『楽になっていく』(20.8%)は2割となっています。
- 扶養中の子供の有無別に見ると、いる人は『厳しくなっていく』(56.0%)が半数強を占めているのに対して、いない人(39.0%)では4割弱で、「今と同じ程度だと思う」(45.8%)が上回っています。『楽になっていく』はいずれも1割強にとどまっています。
- 住宅ローンの有無別に見ると、ある人は『厳しくなっていく』(59.4%)がほぼ6割を占めていますが、ない人では「今と同じ程度だと思う」(44.0%)と『厳しくなっていく』(41.7%)がともに4割強で拮抗しています。
- 世帯年収別に見ると、金額が低いほど「大いに厳しくなっていくと思う」が多くなっています。また、600~800万円未満は『厳しくなっていく』(54.5%)が他を上回っています。

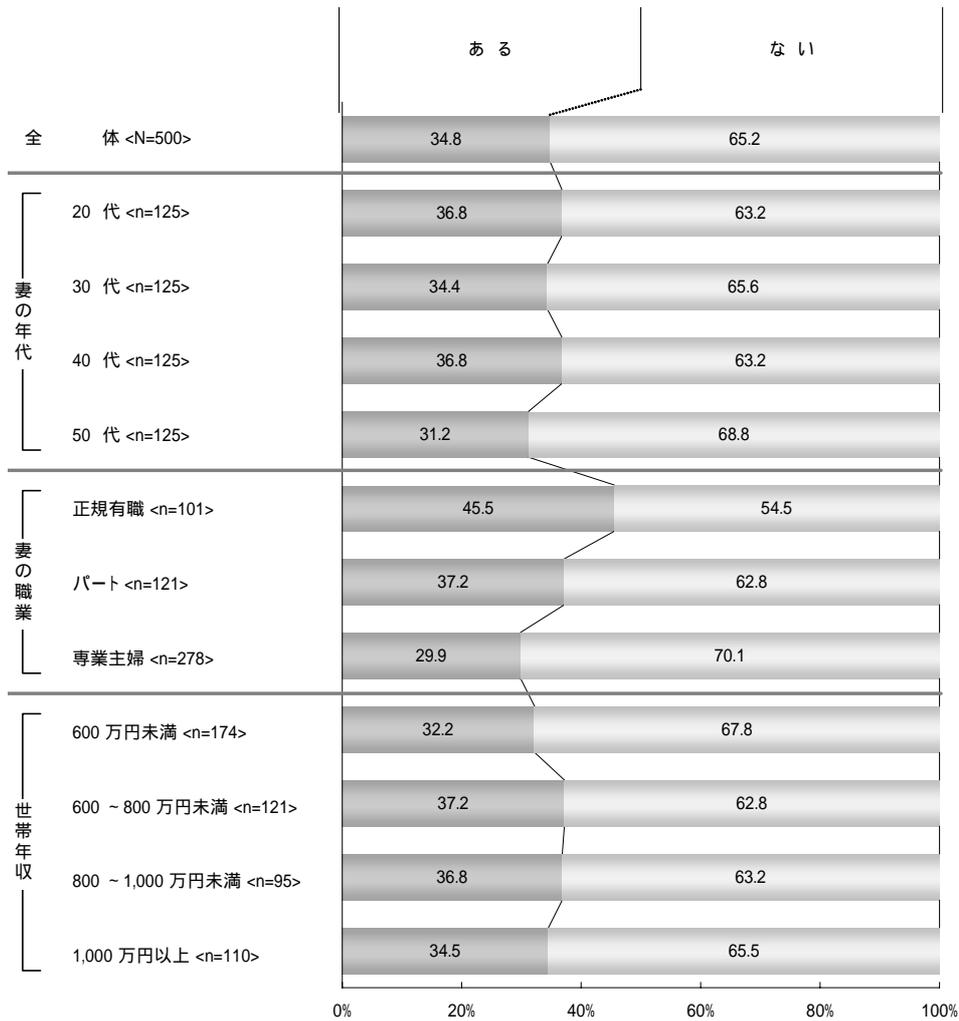
〔 3 〕 不況とわが家の生活

1. 夫に内緒の資産の有無

『夫に内緒の資産』とは、へそくり、結婚前働いていたときに貯めたお金、結婚後自分が働いて貯めたお金、資産運用で得たお金、実家の財産分与など“夫に話していない奥様名義の資産”すべてを指します。

「ある」(34.8%)は3割強で、「ない」(65.2%)が6割強。

図 11 . 夫に内緒の資産の有無



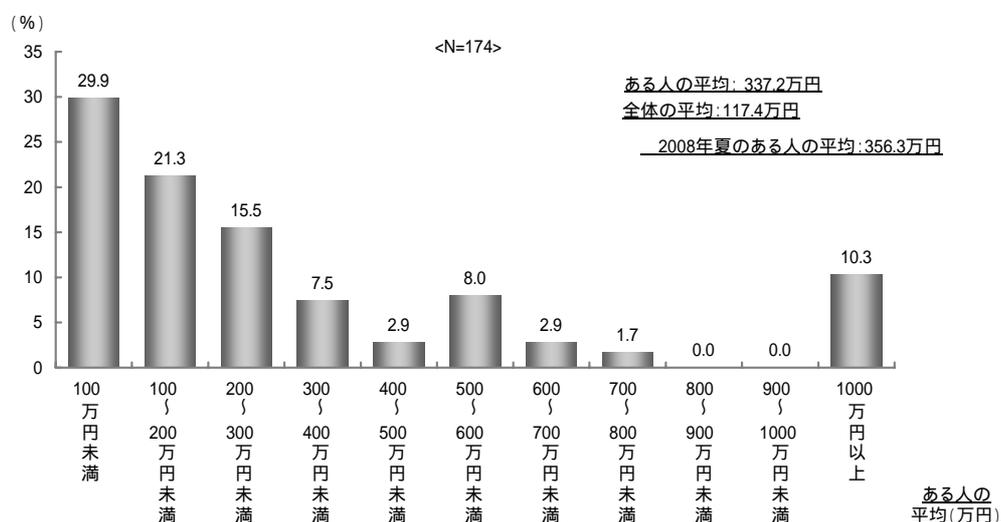
サラリーマン世帯の主婦は、夫に内緒にしている資産をどれくらいの割合の人が持っているのでしょうか。夫に内緒の資産があるかについて聞いてみたところ、「ある」(34.8%)は3割強で、「ない」(65.2%)が6割強となっています。

- 妻の職業別に見て 正規有職 は「ある」(45.5%)が4割強と、他を上回っています。しかし、そのほかにはいずれの属性で見てもさほど大きな違いはありません。

2. 夫に内緒の資産の額

「100万円未満」(29.9%)がほぼ3割、「100～200万円未満」(21.3%)が2割強、「200～300万円未満」(15.5%)が1割強。平均は337.2万円。

図 1 2 . 夫に内緒の資産の額 (夫に内緒の資産がある人のみ)



妻の年代	ある人の平均(万円)											ある人の平均(万円)
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	1000万円未満	1000万円以上	平均	
20代 <n=46>	37.0	28.3	13.0	4.3	2.2	2.2	4.3	2.2	-	-	6.5	208.7
30代 <n=43>	39.5	18.6	14.0	9.3	7.0	9.3	-	2.3	-	-	-	180.4
40代 <n=46>	28.3	21.7	10.9	6.5	2.2	13.0	-	2.2	-	-	15.2	422.4
50代 <n=39>	12.8	15.4	25.6	10.3	-	7.7	7.7	-	-	-	20.5	561.3
職業の												
正規有職 <n=46>	19.6	26.1	13.0	8.7	4.3	10.9	4.3	2.2	-	-	10.9	364.0
パート <n=45>	37.8	11.1	22.2	6.7	-	11.1	-	4.4	-	-	6.7	324.6
専業主婦 <n=83>	31.3	24.1	13.3	7.2	3.6	4.8	3.6	-	-	-	12.0	329.3
世帯年収												
600万円未満 <n=56>	39.3	26.8	16.1	5.4	-	8.9	-	1.8	-	-	1.8	163.0
600～800万円未満 <n=45>	42.2	17.8	17.8	6.7	6.7	-	4.4	-	-	-	4.4	188.4
800～1,000万円未満 <n=35>	17.1	25.7	14.3	11.4	-	11.4	2.9	2.9	-	-	14.3	448.4
1,000万円以上 <n=38>	13.2	13.2	13.2	7.9	5.3	13.2	5.3	2.6	-	-	26.3	667.9

夫に内緒にしている資産を持っているという主婦は、いくらからい資産を持っているのでしょうか。夫に内緒の資産を持っていると回答した人に資産の額を聞きました。

「100万円未満」(29.9%)がほぼ3割を占めており、「100～200万円未満」(21.3%)が2割強、「200～300万円未満」(15.5%)が1割強で300万円未満に集中していますが、「1,000万円以上」(10.3%)も1割ほど見られます。

夫に内緒の資産がある人の資産額の平均は337.2万円です。

ちなみに、最高金額は4,000万円です。

- 妻の年代別に見ると、20代 30代 は「100万円未満」(37.0%、39.5%)が4割弱、「100～200万円未満」(28.3%、18.6%)が2割前後を占めています。40代 は「100万円未満」(28.3%)が3割弱、「100～200万円未満」(21.7%)が2割強を占めていますが、「1,000万円以上」(15.2%)も少なくありません。50代 は「200～300万円未満」(25.6%)が2割強を占め、「1,000万円以上」(20.5%)も2割となっています。平均金額は、20代 が208.7万円、30代 が180.4万円、40代 が

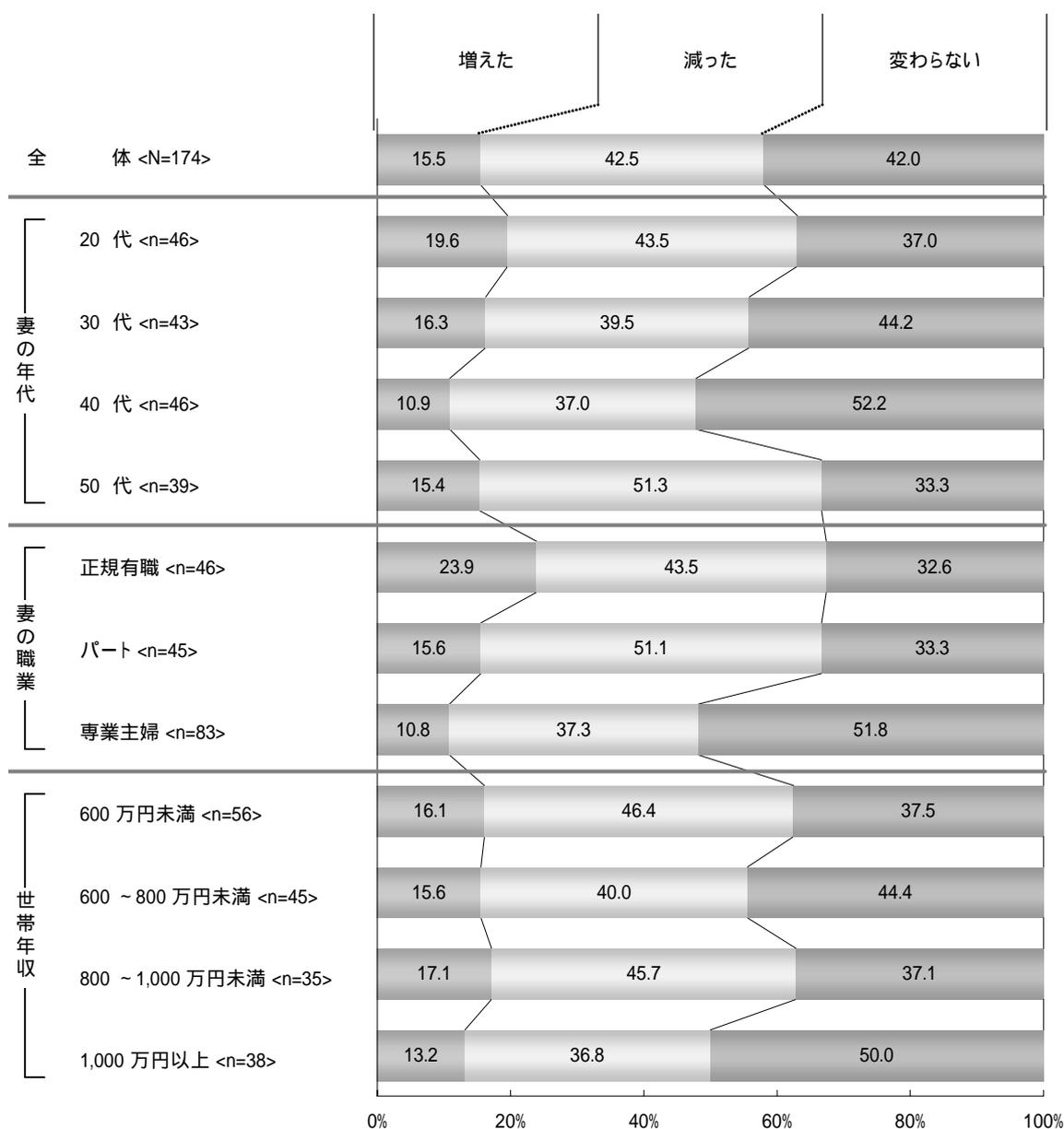
422.4万円、50代が561.3万円となっており、おおむね年齢の高い人ほど高額ですが、30代は20代を下回り最も低額です。

- 妻の職業別に見ると、パート 専業主婦 は「100万円未満」(37.8%、31.3%)が3割を超えており、平均金額は324.6万円と329.3万円です。一方、正規有職は「100～200万円未満」(26.1%)が2割強を占め、平均金額は364.0万円とやや上回っています。
- 世帯年収別に見ると、600万円未満 600～800万円未満 は「100万円未満」(39.3%、42.2%)が4割前後を占め、平均金額は163.0万円と188.4万円ですが、800～1,000万円未満 は「100～200万円未満」(25.7%)が2割強、「1,000万円以上」(14.3%)が1割強などとなっており平均金額は448.4万円、1,000万円以上 は「1,000万円以上」(26.3%)が2割強を占め、平均金額は667.9万円となっています。

3. 夫に内緒の資産の増減

「増えた」(15.5%)は1割強で、「減った」(42.5%)が4割強。「変わらない」(42.0%)も4割強。

図 1 3 . 夫に内緒の資産の増減 (夫に内緒の資産がある人のみ)



不況と言われている現在、夫に内緒の資産は増えているのでしょうか、減っているのでしょうか。夫に内緒の資産があると回答した人に、今年に入ってから資産の増減について聞きました。

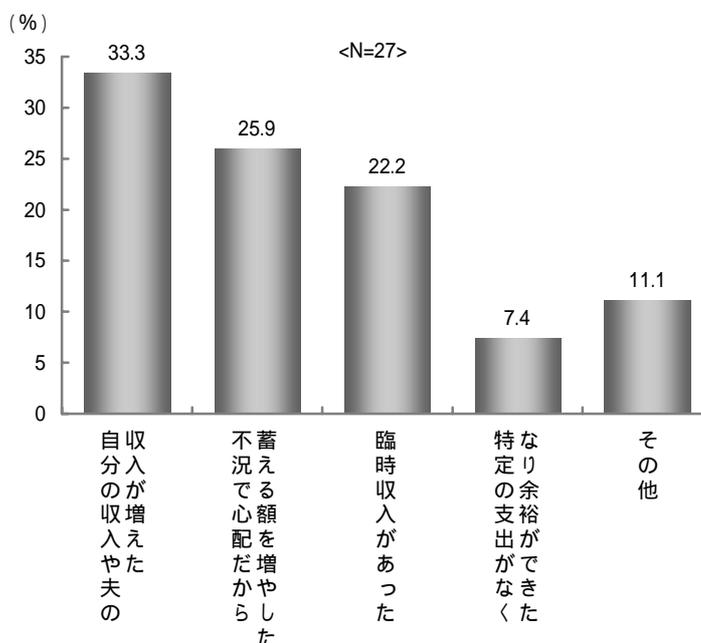
「増えた」(15.5%)は1割強で、「減った」(42.5%)が4割強を占めています。また、「変わらない」(42.0%)も4割強となっています。

- 妻の年代別に見ると、50代は「減った」(51.3%)が半数強を占めており、他の年代を大きく上回っています。20代 30代 40代は「減った」(43.5%、39.5%、37.0%)が4割前後です。また、「増えた」はいずれの年代も(19.6%、16.3%、10.9%、15.4%)が1~2割程度です。
- 妻の職業別に見ると、専業主婦は「変わらない」(51.8%)が半数を超えているのに対して、パートは「減った」(51.1%)が半数を超えています。また、正規有職は「増えた」(23.9%)が2割強で他を上回っています。
- 世帯年収別に見ると、1,000万円以上は「変わらない」(50.0%)が半数を占め、「減った」(36.8%)は他の層を下回っています。一方、600万円未満 800~1,000万円未満は「減った」(46.4%、45.7%)が半数弱を占め、600~800万円未満も「減った」(40.0%)と「変わらない」(44.4%)がほぼ同じ程度となっています。

4. 夫に内緒の資産が増えた理由

「自分や夫の収入が増えた」(33.3%)が3割強。次いで、「不況で心配だから蓄える額を増やした」(25.9%)。

図 14 . 夫に内緒の資産が増えた理由 (夫に内緒の資産があり、今年増えた人のみ)



妻の年代	20代 <n=9>	33.3	22.2	33.3	-	11.1
	30代 <n=7>	28.6	28.6	28.6	-	14.3
	40代 <n=5>	40.0	40.0	20.0	-	-
	50代 <n=6>	33.3	16.7	-	33.3	16.7
妻の職業	正規有職 <n=11>	54.5	27.3	18.2	-	-
	パート <n=7>	28.6	14.3	14.3	-	42.9
	専業主婦 <n=9>	11.1	33.3	33.3	22.2	-
世帯年収	600万円未満 <n=9>	22.2	11.1	33.3	11.1	22.2
	600～800万円未満 <n=7>	28.6	42.9	28.6	-	-
	800～1,000万円未満 <n=6>	66.7	33.3	-	-	-
	1,000万円以上 <n=5>	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0

今年に入って夫に内緒の資産が増えたと回答した人に、増えた理由を聞きました。

最も多いのは、「自分や夫の収入が増えた」(33.3%)で3割強を占めています。次いで多いのは「不況で心配だから蓄える額を増やした」(25.9%)で、以下「臨時収入があった」(22.2%)が2割強、「(ローンの完済等)特定の支出がなくなり余裕ができた」(7.4%)が1割弱となっています。

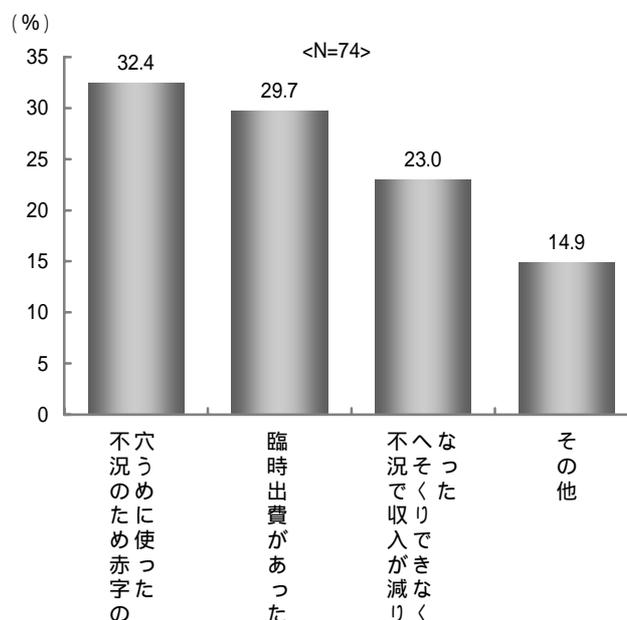
【ご参考】

サンプル数が少ないため、ご参考までに属性別の割合を記載しますが、分析は不能です。

5. 夫に内緒の資産が減った理由

「不況のため赤字の穴うめに使った」(32.4%)が3割強。「臨時出費があった」(29.7%)、「不況で収入が減りへそくりできなくなった」(23.0%)が続く。

図 15 . 夫に内緒の資産が減った理由 (夫に内緒の資産があり、今年減った人のみ)



妻の年代	20代 <n=20>	45.0	40.0	15.0	-
	30代 <n=17>	41.2	23.5	23.5	11.8
	40代 <n=17>	29.4	29.4	17.6	23.5
	50代 <n=20>	15.0	25.0	35.0	25.0
妻の職業	正規有職 <n=20>	25.0	30.0	45.0	-
	パート <n=23>	52.2	21.7	4.3	21.7
	専業主婦 <n=31>	22.6	35.5	22.6	19.4
世帯年収	600万円未満 <n=26>	46.2	23.1	19.2	11.5
	600～800万円未満 <n=18>	27.8	50.0	11.1	11.1
	800～1,000万円未満 <n=16>	25.0	12.5	50.0	12.5
	1,000万円以上 <n=14>	21.4	35.7	14.3	28.6

今年に入って夫に内緒の資産が減ったと回答した人に、減った理由を聞きました。

最も多いのは「不況のため赤字の穴うめに使った」(32.4%)で3割強を占めています。

以下、「臨時出費があった」(29.7%)、「不況で収入が減りへそくりできなくなった」(23.0%)が続いています。

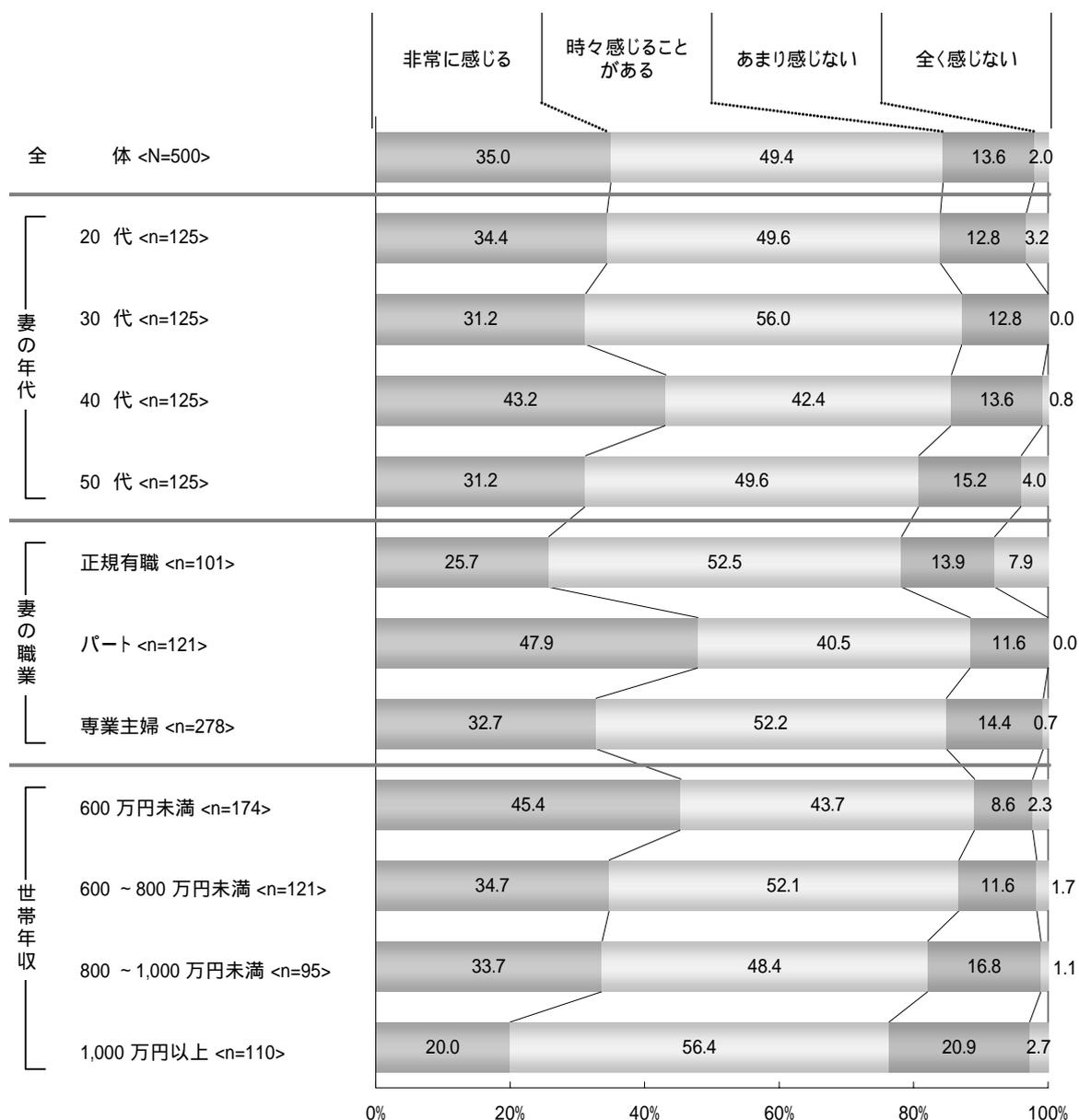
【ご参考】

サンプル数が少ないためご参考までですが、妻の職業別に見て パート、世帯年収別に見て 600万円未満 は「不況のため赤字の穴うめに使った」(52.2%、46.2%)が他を大きく上回っており、正規有職、800～1,000万円未満 は「不況で収入が減りへそくりできなくなった」(45.0%、50.0%)が他を上回っています。

6. 不況の実感

「時々感じることもある」(49.4%)がほぼ半数、「非常に感じる」(35.0%)が3割強で、『感じる』(84.4%)が圧倒的。

図 16 . 現在を不況だと実感するか



社会的に不況だと言われていますが、主婦は本当に現在を不況だと感じているか聞いてみました。

「時々感じることもある」(49.4%)がほぼ半数を占め、「非常に感じる」(35.0%)が3割強と、『感じる』(84.4%)が圧倒的に多くなっています。「あまり感じない」(13.6%)と「全く感じない」(2.0%)を合わせた『感じない』(15.6%)は1割強にすぎません。

- 妻の年代別に見ると、いずれの年代でも『感じる』が8割以上を占めていますが、なかでも40代は「非常に感じる」(43.2%)が4割強を示し、他の年代を上回っています。
- 妻の職業別に見ると、パートは「非常に感じる」(47.9%)が半数近くを占め、とりわけ多くなっています。正規有職 専業主婦は「時々感じることもある」(52.5%、52.2%)が半数を超えており、いずれにせよ『感じる』が圧倒的となっています。
- 世帯年収別に見ると、金額が低いほど「非常に感じる」が多く、600万円未満(45.4%)では半数弱を占めています。「時々感じることもある」を合わせた『感じる』も金額の低い人ほど多くなっています。

7. 不況だと感じる時

「給与が下がった」(63件)「ボーナスが減った」(42件)など“夫の収入で”実感することが最も多い。「収入に対して物価が高い」(25件)など“生活の中で”、「不況に関するニュースを見て」(21件)など“報道で”感じることも多い。

表 4. 不況だと感じる時【不況を実感している人のみ】

内 容	件数	内 容	件数
夫の収入で	(165)	買い物で	(41)
給与が下がった	63	買い物に行っても客が少ない	14
ボーナスが減った	42	買い物で安いものに客が殺到している	6
昇給が少なかった	22	店が安売りしている	6
残業が減った	18	お店がつぶれた、閉店した	6
残業代がカットされる(サービス残業)	11	客が物をあまり買っていない(買い控え)	5
残業が制限されている	6	店のサービスが低下している	2
昇給がなかった	3	安い物が売れている	2
生活の中で	(83)	夫の勤務先で	(25)
収入に対して物価が高い	25	仕事が減っている	13
買いたい物を我慢している	16	人員整理が行われ始めた	5
やりくりが苦しい	12	出張が減った	4
赤字の補填に蓄えを切り崩している	8	受注が取れない	3
外食することが減った	7	人の話で	(23)
金融資産が目減りした	4	知人から苦しいという話をよく聞く	7
蓄えがない	3	友人の夫の収入が減った	4
貯蓄できない	3	知人の会社が倒産した、倒産しそうである	4
ささやかな贅沢ができなくなった	3	友人がワークシェアリングで休みが多い	3
旅行を諦めた	2	友人がリストラされた	3
報道で	(65)	友人の節約ぶりを見て	2
不況に関するニュースを見て	21	社会情勢で	(19)
就職難の報道を見て	13	企業の求人がない	9
雇用不安の報道を見て	12	株価の暴落	8
企業倒産のニュースを見て	6	ホームレスをよく見かける	2
職安に人があふれているのを見て	5	主婦の職業で	(17)
派遣切りの報道を見て	4	自分も働こうと思うが仕事が見つからない	8
節約を扱った番組が増えた	2	勤め先を解雇された、契約が更新されなかった	4
失業率の上昇を報道で見て	2	時給の安いパートしかない	3
		パートに出る人が多い	2

不況を実感しているという人に、どんな時に不況だと感じるのかを自由にあげてもらいました。

最も多いのは「給与が下がった」(63件)、次いで「ボーナスが減った」(42件)で、この2つが突出しています。そのほか、「昇給が少なかった」(22件)、「残業が減った」(18件)、「残業代がカットされる(サービス残業)」(11件)など“夫の収入で”不況を実感するとして多くあげられています。

次に、「収入に対して物価が高い」(25件)、「買いたい物を我慢している」(16件)、「やりくりが苦しい」(12件)、「赤字の補填に蓄えを切り崩している」(8件)、「外食するこ

とが減った」(7件)、「貯蓄できない」(3件)など“生活の中で”感じるという内容も多くあげられています。

また、「不況に関するニュースを見て」(21件)、「就職難の報道を見て」(13件)、「雇用不安の報道を見て」(12件)、「企業倒産のニュースを見て」(6件)、「職安に人があふれているのを見て」(5件)、「派遣切りの報道を見て」(4件)など“報道で”感じるという人も多くなっています。

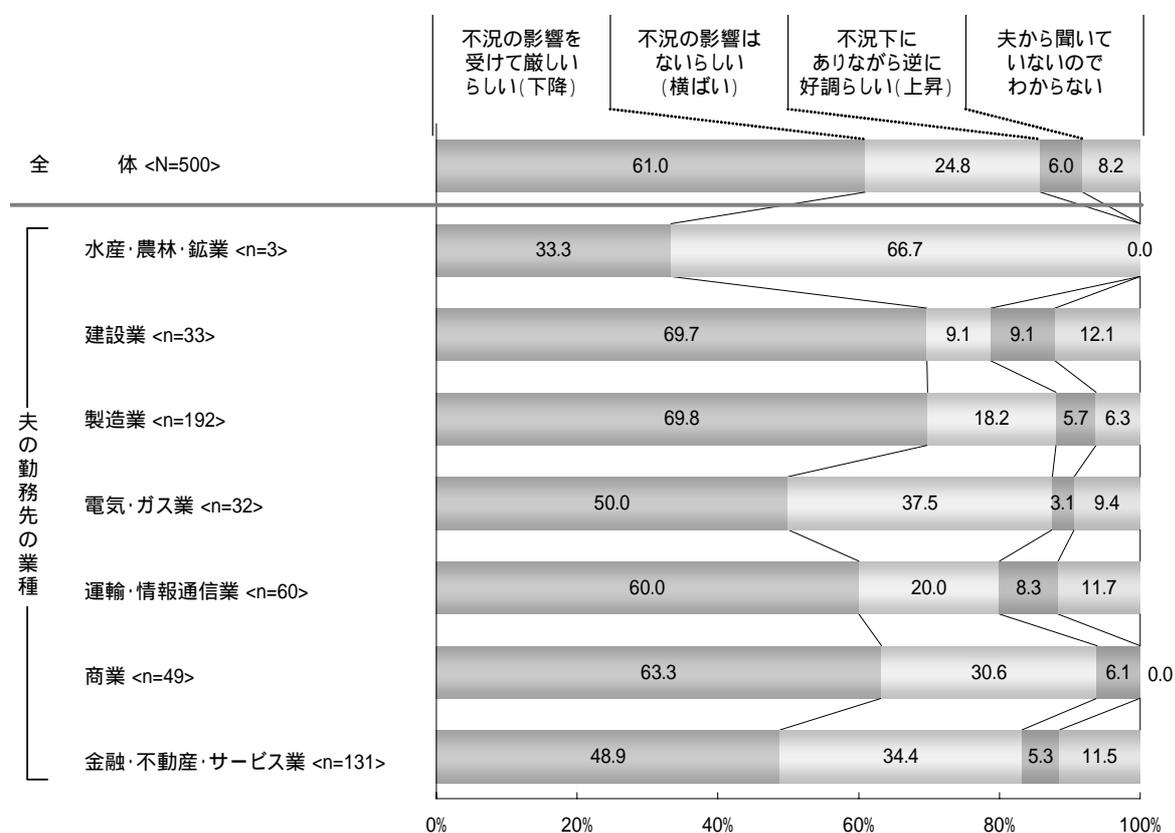
さらに、「買い物に行っても客が少ない」(14件)、「買い物で安いものに客が殺到している」、「店が安売りしている」、「お店がつぶれた、閉店した」(各6件)、「客が物をあまり買っていない(買い控え)」(5件)など“買い物で”実感するという人も少なくありません。

そのほか、「仕事が減っている」(13件)、「人員整理が行われ始めた」(5件)、「出張が減った」(4件)といった“夫の勤務先で”や、「知人から苦しいという話をよく聞く」(7件)、「友人の夫の収入が減った」(4件)、「知人の会社が倒産した、倒産しそうである」(各4件)、「友人がワークシェアリングで休みが多い」(3件)など“人の話で”、さらに「企業の求人がない」(9件)、「株価の暴落」(8件)といった“社会情勢で”、「自分も働こうと思うが仕事が見つからない」(8件)、「勤め先を解雇された、契約が更新されなかった」(4件)、「時給の安いパートしかない」(3件)といった“主婦の職業で”などの内容があげられています。

8. 夫の勤務先の業績

「不況の影響を受けて厳しい」(61.0%)が6割強。「不況の影響はない」(24.8%)は2割強、「不況下にありながら好調」(6.0%)はごくわずか。

図 17. 夫の勤務先の業績



夫の勤務先の業績は不況の影響を受け厳しい状況にあるのか、それとも好調なのかについて聞いてみました。

「不況の影響を受けて厳しい(下降)」(61.0%)が6割強を占めており、「不況の影響はない(横ばい)」(24.8%)は2割強、「不況下にありながら好調(上昇)」(6.0%)はごくわずかとなっています。「聞いていないのでわからない」(8.2%)は1割弱です。

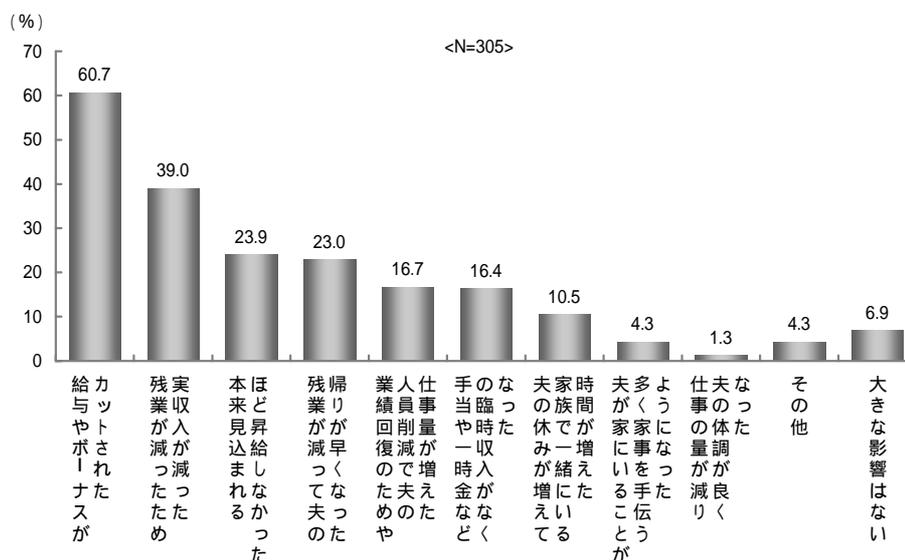
【ご参考】

サンプル数に偏りがあるためご参考までですが、勤務先の業種別に見ると、製造業 建設業 は「不況の影響を受けて厳しい」(69.8%、69.7%)がほぼ7割と他の業種を上回っています。商業 運輸・情報通信業 も「不況の影響を受けて厳しい」(63.3%、60.0%)が多い業種といえます。一方、電気・ガス業 金融・不動産・サービス業 は「不況の影響を受けて厳しい」(50.0%、48.9%)が半数程度で、「不況の影響はない」(37.5%、34.4%)が3割強となっています。しかし、「不況下にありながら好調」が多い業種はありません。

9. 勤務先の業績の悪さが生活や家計に及ぼす影響

「給与やボーナスがカットされた」(60.7%)が6割強。「残業が減ったため実収入が減った」(39.0%)が4割弱、「本来見込まれるほど昇給しなかった」(23.9%)、「残業が減って夫の帰りが早くなった」(23.0%)が2割強。

図 18 . 勤務先の業績の悪さが家計に及ぼす影響(「業績が下降」選択者のみ)【複数回答】



属性	妻の年代	世帯年収	給与やボーナスがカットされた	残業が減ったため実収入が減った	本来見込まれるほど昇給しなかった	残業が減って夫の帰りが早くなった	業績回復のためや人員削減で夫の仕事量が増えた	手当や一時金などの臨時収入がなくなった	夫の休みが増えたり家族と一緒にいる時間が増えた	夫が家にいることが多くなり家事を手伝うようになった	仕事の量が減り夫の体調が良くなった	その他	大きな影響はない
妻の年代	20代 <n=72>	600万円未満 <n=113>	54.2	48.6	26.4	29.2	23.6	6.9	15.3	4.2	-	5.6	5.6
	30代 <n=79>	600～800万円未満 <n=76>	62.0	45.6	24.1	20.3	20.3	21.5	10.1	6.3	1.3	3.8	6.3
	40代 <n=82>	800～1,000万円未満 <n=57>	65.9	39.0	23.2	26.8	13.4	17.1	11.0	3.7	2.4	1.2	6.1
	50代 <n=72>	1,000万円以上 <n=59>	59.7	22.2	22.2	15.3	9.7	19.4	5.6	2.8	1.4	6.9	9.7

夫の勤務先の業績の悪さは、サラリーマン世帯の生活や家計にどのような形で影響を及ぼしているのでしょうか。業績が下降していると回答した人に聞いてみました。

「給与やボーナスがカットされた」(60.7%)は6割があげており最も多くなっています。また、「残業が減ったため実収入が減った」(39.0%)が4割弱、「本来見込まれるほど昇給しなかった」(23.9%)が2割強と、「収入が減った」との内容が続いています。さらに、「業績回復のためや人員削減で夫の仕事量が増えた」(16.7%)、「手当や一時金などの臨時収入がなくなった」(16.4%)も1割強と、ネガティブな内容が多くあげられています。一方、ポジティブな内容としては、「残業が減って夫の帰りが早くなった」(23.0%)が2割強あげられています。そのほかはいずれも少なく、「夫の休みが増えて家族と一緒にいる時間が増えた」(10.5%)、「夫が家にいることが多くなり家事を手伝うようになった」(4.3%)、「仕事の量が減り夫の体調が良くなった」(1.3%)がわずかずあげられているだけです。

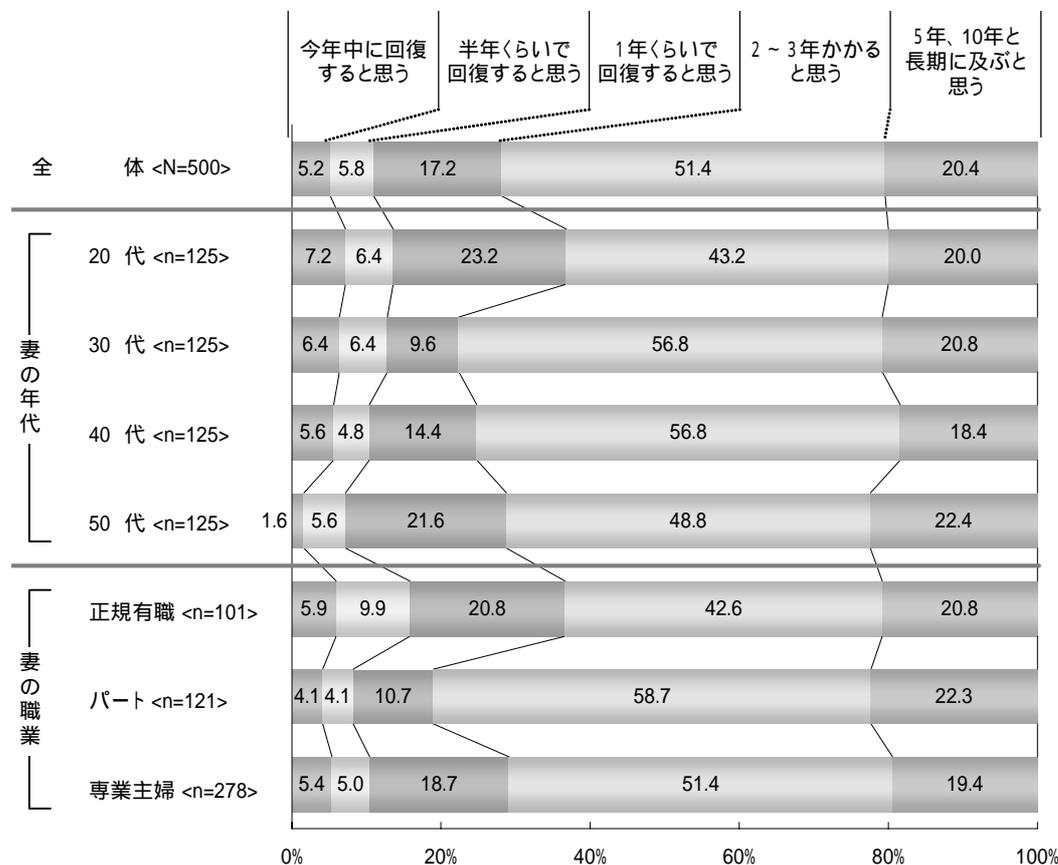
なお、「大きな影響はない」(6.9%)はごく少数で、ほとんどの人が『何らかの影響を受けている』(93.1%)と回答しています。

- 妻の年代別に見ると、若い世代ほど「残業が減ったため実収入が減った」の割合が高く、20代（48.6%）では半数弱となっています。また、「残業が減って夫の帰りが早くなった」「夫の休みが増えて家族で一緒にいる時間が増えた」もおおむね若い世代ほど多くなっていますが、反対に「業績回復のためや人員削減で夫の仕事量が増えた」についても、若い人ほど多い傾向が見られます。なお、「給与やボーナスがカットされた」は40代（65.9%）や30代（62.0%）に多くなっています。
- 世帯年収別に見ると、600～800万円未満は「給与やボーナスがカットされた」（72.4%）、「手当や一時金などの臨時収入がなくなった」（22.4%）が、600万円未満は「業績回復のためや人員削減で夫の仕事量が増えた」（23.9%）が他を上回っています。一方、1,000万円以上は「残業が減ったため実収入が減った」（15.3%）、「残業が減って夫の帰りが早くなった」（16.9%）、「手当や一時金などの臨時収入がなくなった」（8.5%）が他の層ほど多くありません。

10. 景気の回復予想時期

「2～3年かかると思う」(51.4%)が半数強。「5年、10年と長期に及ぶと思う」(20.4%)、「1年くらい(来年中)で回復すると思う」(17.2%)が2割前後で続く。

図 19. 景気の回復予想時期



サラリーマン世帯の主婦は、この不況がいつ頃まで続くかと予測しているのでしょう。景気の回復予想時期を聞きました。

最も多いのは「2～3年かかると思う」(51.4%)で、次いで「5年、10年と長期に及ぶと思う」(20.4%)の順となっています。以下、「1年くらい(来年中)で回復すると思う」(17.2%)、「半年くらい(来年早々)で回復すると思う」(5.8%)、「今年中に回復すると思う」(5.2%)と続いており、『1年以内に回復』(28.2%)するとの見方が3割弱となっています。

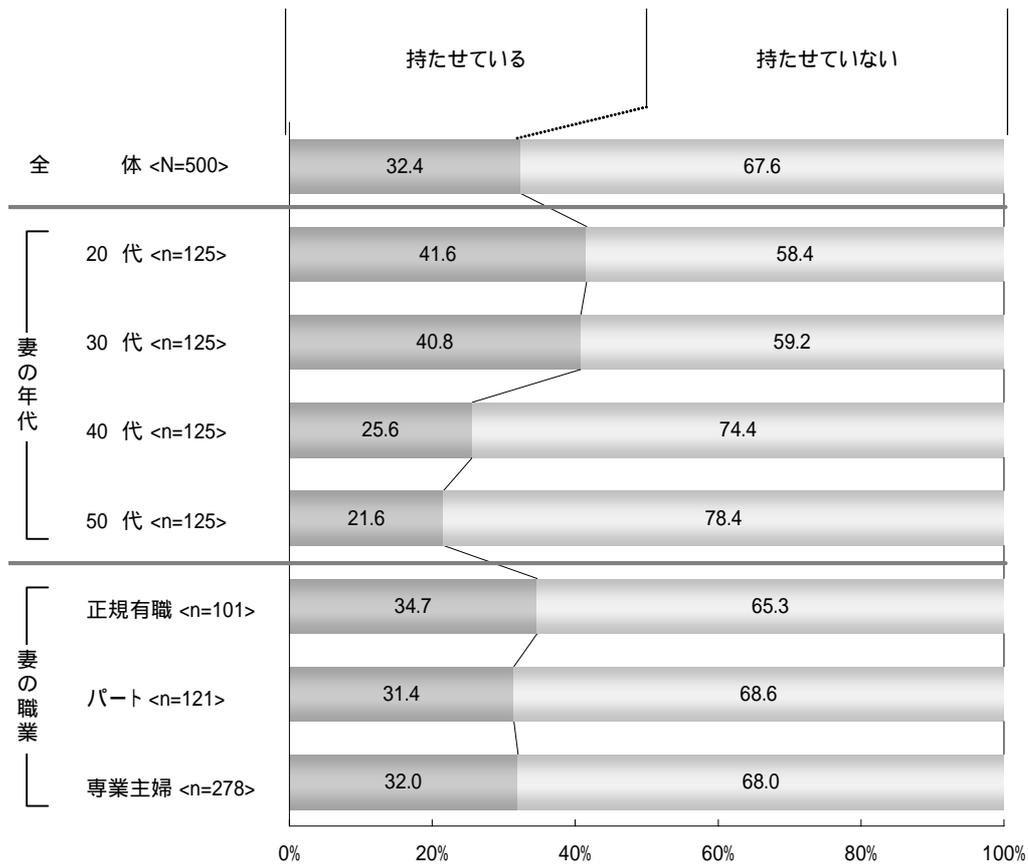
- 妻の年代別に見ると、いずれの年代も「2～3年かかると思う」が最も多くあげられています。20代は「1年くらいで回復すると思う」(23.2%)が2割強と、『1年以内に回復』(36.8%)との見方が他の年代を上回っています。30代 40代は「2～3年かかると思う」(各56.8%)がとりわけ多くなっています。
- 妻の職業別に見ると、パートは「2～3年かかると思う」(58.7%)がとりわけ多いのに対して、正規有職は「1年くらいで回復すると思う」(20.8%)が2割を占めるなど『1年以内に回復』(36.6%)との見方が他を上回っています。

〔 4 〕 生活にまつわる話

1. サラリーマンの昼食の弁当

3割強が手作り弁当を「継続的に持たせている」(32.4%)。

図 20 . 夫の昼食に手作り弁当を継続的に持たせているか



サラリーマンである夫に、昼食として手作り弁当を継続的に(週に1回以上欠かさず)持たせているかどうか聞きました。

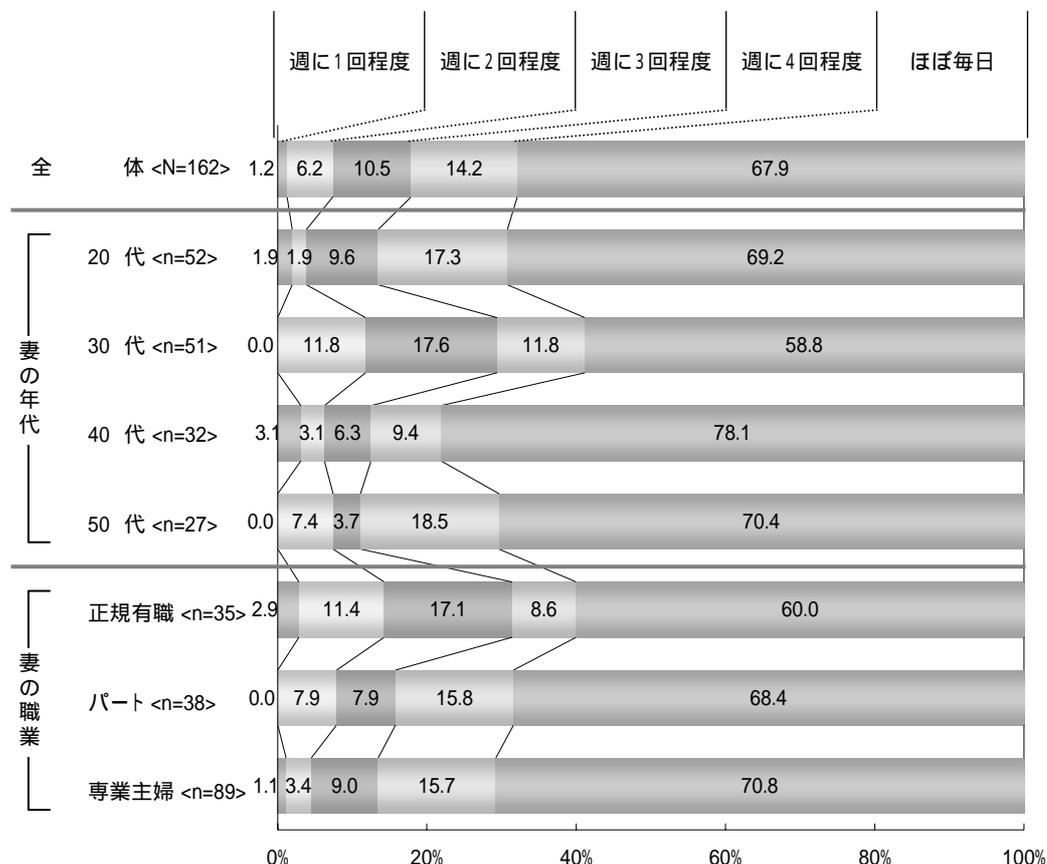
3割強が「継続的に持たせている」(32.4%)と回答しており、「持たせていない」(67.6%)が7割弱となっています。

- 妻の年代別に見ると、若い人ほど「継続的に持たせている」が多く、20代 30代 (41.6%、40.8%)では4割強、40代 50代 (25.6%、21.6%)では2割強となっています。
- 妻の職業別では、さほど大きな違いは見られません。

2. 夫に手作り弁当を持たせる頻度

「ほぼ毎日」(67.9%)が7割弱を占める。

図 2 1 . 夫に手作り弁当を持たせる頻度 (弁当を持たせている人のみ)



手作り弁当を持たせているという人に、どれくらいの頻度で持たせているのか回数を聞きました。

「ほぼ毎日」(67.9%)が7割弱を占めて圧倒的です。そのほかには、「週に4回程度」(14.2%)、「週に3回程度」(10.5%)が1割強となっています。

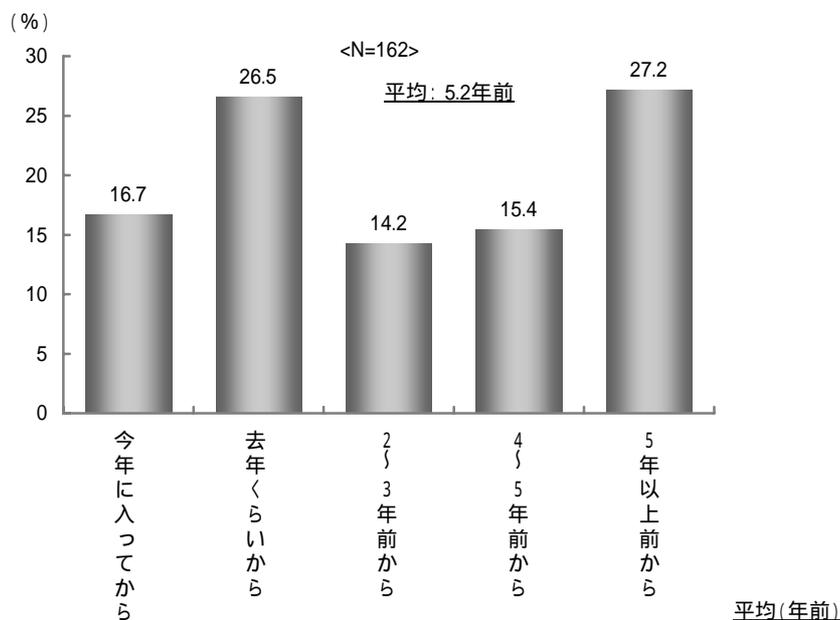
持たせている人の平均は、週に4.8回です。

- 妻の年代別に見ると、40代は「ほぼ毎日」(78.1%)が8割弱と特に多くなっています。
- 妻の職業別では、特に違いは見られません。

3. 夫に手作り弁当を持たせ始めた時期

「去年くらいから」が 26.5%、「今年に入ってから」が 16.7%と、『去年から今年』(43.2%) が 4 割強。なかでも 正規有職 は『去年から今年』(68.6%) が 7 割弱。

図 2 2 . 夫に手作り弁当を持たせ始めた時期 (弁当を持たせている人のみ)



		今年に入ってから	去年くらいから	2~3年前から	4~5年前から	5年以上前から	平均(年前)
妻の年代	20代 <n=52>	23.1	26.9	25.0	19.2	5.8	2.4
	30代 <n=51>	15.7	23.5	13.7	15.7	31.4	4.6
	40代 <n=32>	15.6	31.3	6.3	9.4	37.5	6.5
	50代 <n=27>	7.4	25.9	3.7	14.8	48.1	10.0
妻の職業	正規有職 <n=35>	25.7	42.9	5.7	11.4	14.3	3.2
	パート <n=38>	7.9	28.9	26.3	10.5	26.3	5.2
	専業主婦 <n=89>	16.9	19.1	12.4	19.1	32.6	5.9

手作り弁当を持たせているという人に、いつ頃から持たせるようになったのか聞きました。

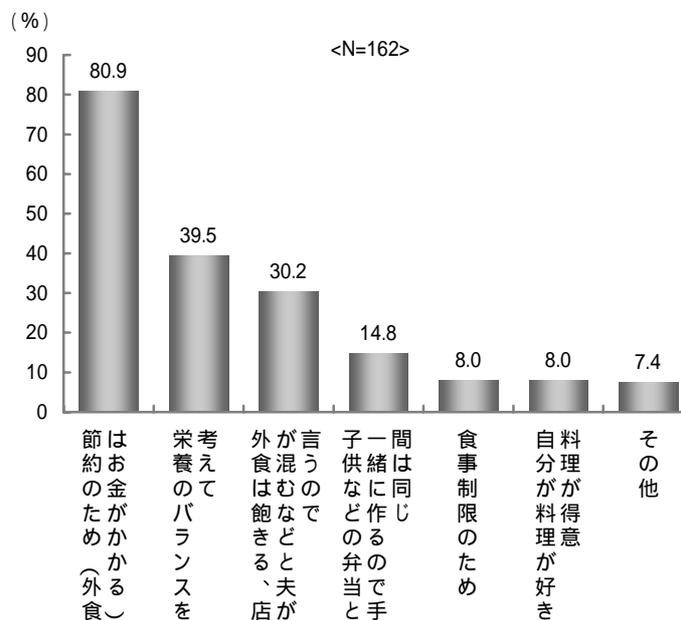
「去年くらいから」(26.5%) が 2 割強、「今年に入ってから」(16.7%) が 1 割強となっており、両者を合わせると『去年から今年』(43.2%) という“不況と言われるようになってから”持たせるようになった人が 4 割を超えています。以下、「2~3年前から」(14.2%)、「4~5年前から」(15.4%) がそれぞれ 1 割強、「5年以上前から」(27.2%) は 3 割弱となっています。

- 妻の年代別に見ると、「今年に入ってから」は年齢の若い人ほど多く、20代 (23.1%) は 2 割強と他の年代を上回っています。
- 妻の職業別に見ると、正規有職 は「今年に入ってから」(25.7%) と「去年くらいから」(42.9%) がともに他の職業を大きく上回っており、『去年から今年』(68.6%) が 7 割弱を占めています。

4. 夫に手作り弁当を持たせる理由

「節約のため」(80.9%)は8割、「栄養のバランスを考えて」(39.5%)はほぼ4割。

図 23 . 夫に手作り弁当を持たせる理由 (弁当を持たせている人のみ)【複数回答】



妻の年代	20代 <n=52>	30代 <n=51>	40代 <n=32>	50代 <n=27>
妻の年代	90.4	82.4	78.1	63.0
妻の年代	38.5	27.5	40.6	63.0
妻の年代	25.0	25.5	34.4	44.4
妻の年代	11.5	15.7	18.8	14.8
妻の年代	9.6	5.9	6.3	11.1
妻の年代	7.7	2.0	12.5	14.8
妻の年代	5.8	11.8	6.3	3.7
妻の職業	77.1	73.7	85.4	-
妻の職業	60.0	23.7	38.2	-
妻の職業	25.7	31.6	31.5	-
妻の職業	17.1	18.4	12.4	-
妻の職業	17.1	10.5	3.4	-
妻の職業	11.4	5.3	7.9	-
妻の職業	-	10.5	9.0	-

手作り弁当を持たせているという人に、どうして持たせているのかその理由を聞きました。

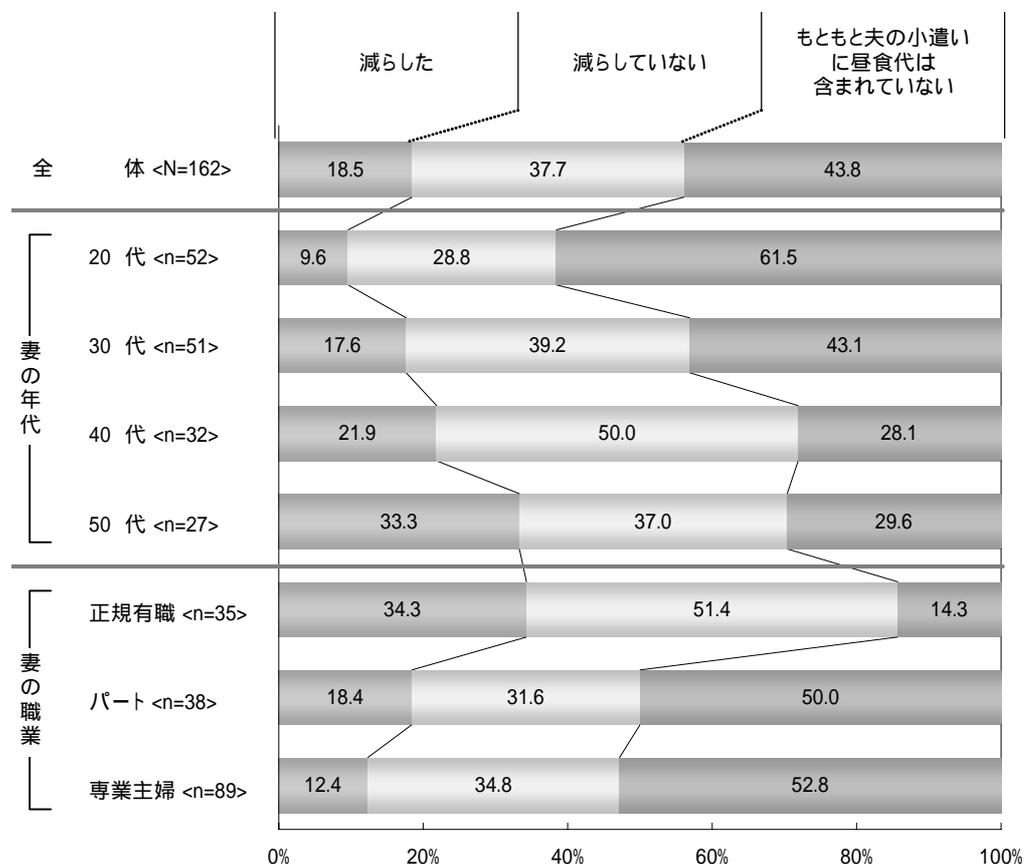
「節約のため(外食はお金がかかる)」(80.9%)は8割があげており、突出しています。以下、「栄養のバランスを考えて」(39.5%)がほぼ4割、「外食は飽きる、店が混む、おいしい店がない、と夫が言うので」(30.2%)が3割、「子供や自分(奥様)などの弁当と一緒に作るので手間は同じ」(14.8%)が1割強、「食事制限のため(アレルギー、メタボ等)」「自分が料理が好き・得意」(各8.0%)が1割弱の割合で続いています。

- 妻の年代別に見ると、「節約のため」は年齢の若い人ほど多く、20代(90.4%)では9割があげています。一方、「栄養のバランスを考えて」や「外食は飽きる、店が混む、おいしい店がない、と夫が言うので」は年齢の高い人に多く、50代(63.0%、44.4%)が最も高率となっています。
- 妻の職業別に見ると、専業主婦は「節約のため」(85.4%)がとりわけ多く8割を超えています。一方、正規有職は「栄養のバランスを考えて」(60.0%)が6割を示し、他の職業を大きく上回っています。

5. 弁当と夫のお小遣い

「減らした」(18.5%)は2割弱、「減らしていない」(37.7%)が4割弱。

図 2.4 . 夫の小遣いを昼食代の分、減らしたか(弁当を持たせている人のみ)



手作り弁当を持たせているという人に、弁当を持たせるようになって夫のお小遣いから昼食代の分を減らしたか聞きました。

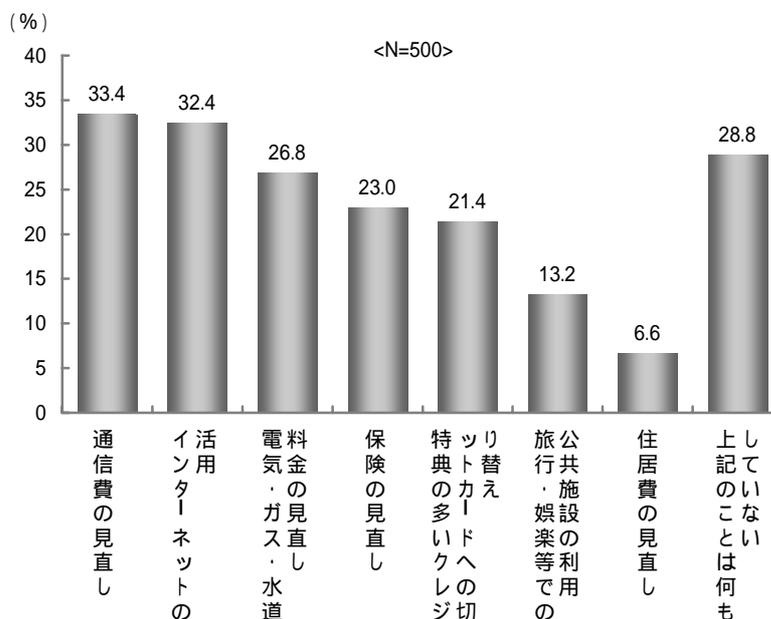
2割弱が「減らした」(18.5%)としており、「減らしていない」(37.7%)が4割弱となっています。なお、“これまで社員食堂で給与天引きだった”、“結婚当初からずっと弁当だった”など「もともと夫の小遣いに昼食代は含まれていない」(43.8%)は4割強です。

- 妻の年代別に見ると、年齢の高い人ほど「減らした」が多く、50代(33.3%)では3割強を占めています。
- 妻の職業別に見ると、正規有職は「減らした」(34.3%)が3割を超えており、他の職業を大きく上回っています。

6. 儉約や儉約の検討をしている内容

「通信費の見直し」(33.4%)、「インターネットの活用」(32.4%)がそれぞれ3割強。

図 25 . 儉約や儉約の検討をしている内容【複数回答】



妻の年代	20代 <n=125>	39.2	35.2	28.0	29.6	20.8	15.2	3.2	19.2
	30代 <n=125>	38.4	34.4	26.4	22.4	21.6	16.8	8.8	24.8
	40代 <n=125>	26.4	31.2	25.6	18.4	16.8	12.0	6.4	40.8
	50代 <n=125>	29.6	28.8	27.2	21.6	26.4	8.8	8.0	30.4
世帯年収	600万円未満 <n=174>	37.4	27.0	28.7	22.4	21.3	13.8	4.0	24.7
	600～800万円未満 <n=121>	34.7	33.9	28.9	21.5	23.1	12.4	5.8	29.8
	800～1,000万円未満 <n=95>	30.5	37.9	24.2	25.3	17.9	10.5	11.6	30.5
	1,000万円以上 <n=110>	28.2	34.5	23.6	23.6	22.7	15.5	7.3	32.7

サラリーマン世帯ではどのような儉約をしているのでしょうか。実際に行なったり検討したりしていることをあげてもらいました。

「通信費の見直し(携帯電話のプラン変更や固定電話・インターネットの割引プラン等)」(33.4%)、「インターネットの活用(ネットスーパーでの底値買いやネットオークションでの売買等)」(32.4%)が3割強、「電気・ガス・水道料金の見直し(節水トイレ、ソーラーパネル等)」(26.8%)、「保険の見直し」(23.0%)、「特典の多いクレジットカードへの切り替え」(21.4%)が2割強となっています。以下、「旅行・娯楽等での公共施設の利用」(13.2%)、「住居費の見直し(住宅ローンの借り換え等)」(6.6%)が続いています。

『何らかを実際に行なったり検討したりしている』(71.2%)が7割を超えており、「このようなことは何もしていない」(28.8%)は3割弱にとどまっています。

- 妻の年代別に見ると、20代 30代 は「通信費の見直し」(39.2%、38.4%)が40代 50代 (26.4%、29.6%)を上回っており、「インターネットの活用」も

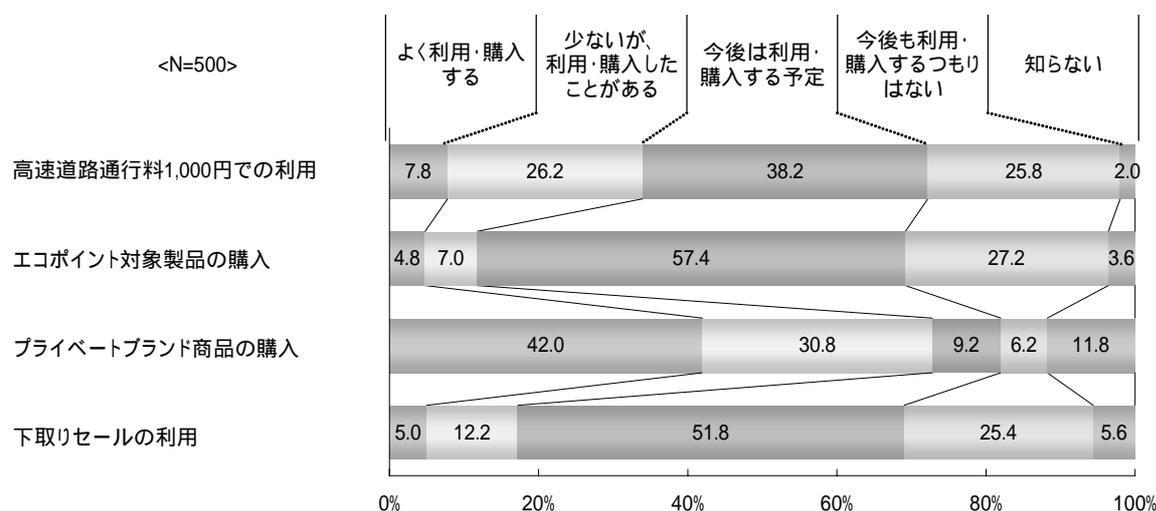
若い世代ほど多くなっています。また、20代では「保険の見直し」(29.6%)もほぼ3割を示し他の年代を上回っており、総じて若い人ほど『何らかをしている』割合が高くなっています。

- 世帯年収別に見ると、年収が低いほど「通信費の見直し」がやや上回っていますが、総じてさほど大きな違いはありません。

7. 割安感のあるものの経験率や経験意向

利用・購入経験率は「プライベートブランド商品の購入」(72.8%)が7割強、「高速道路通行料1,000円での利用」(34.0%)が3割強、「下取りセールスの利用」(17.2%)、「エコポイント対象製品の購入」(11.8%)が1割強。

図 26 . 割安感のあるものの経験率や経験意向



割安感のあるものをどの程度の人が利用したり購入したりしたのでしょうか。それについて利用や購入経験の有無を、また、利用・購入経験のない人には今後の利用・購入意向について聞きました。

「プライベートブランド商品の購入」は<よく購入する>(42.0%)が4割を超えており、<少ないが購入したことがある>(30.8%)も3割と、両者を合わせると『購入経験率』(72.8%)は7割強にのびります。また、「今後も購入するつもりはない」(6.2%)は4項目のなかで最も少なくなっています。しかし、その一方で、<知らない>(11.8%)も1割強見られ、『認知率』(88.2%)は4項目のうちで最も低くなっています。

「高速道路通行料1,000円での利用」は<よく利用する>(7.8%)は少ないものの、<少ないが利用したことがある>(26.2%)が2割強を占めており、合わせると『利用経験率』(34.0%)は3割強となります。また、<利用したことはないが、今後利用する予定>(38.2%)が4割弱を占めています。

「下取りセールスの利用」は<よく利用する>(5.0%)、<少ないが利用したことがある>(12.2%)ともあまり多くなく、『利用経験率』(17.2%)は1割台にとどまっていますが、<利用したことはないが今後利用する予定>(51.8%)が半数を超えています。

「エコポイント対象製品の購入」も<よく購入する>(4.8%)、<少ないが購入したことがある>(7.0%)ともに少なく、『購入経験率』(11.8%)が1割強にとどまっています。<購入したことはないが今後購入する予定>(57.4%)は4項目の中で最も高率となっています。

表 5 . 属性別に見た割安感のあるものの『利用・購入経験率』

		高速道路 通行料1,000 円 での利用	エコポイント 対象商品の購入	プライベート ブランド 商品の購入	下取りセール の利用
妻 の 年 代	20 代	43.2	10.4	77.6	15.2
	30 代	30.4	5.6	70.4	14.4
	40 代	32.0	11.2	77.6	15.2
	50 代	30.4	20.0	65.6	24.0
世 帯 年 収	600 万円未満	38.5	8.6	73.6	14.4
	600 ~ 800 万円未満	33.1	9.9	73.6	14.9
	800 ~ 1,000 万円未満	35.8	18.9	76.8	28.4
	1,000 万円以上	26.4	12.7	67.3	14.5

- 妻の年代別に『利用・購入経験率』を見ると、20代は「高速道路通行料 1,000 円での利用」(43.2%)が4割を超え他の年代を上回っています。一方、50代は「下取りセール」(24.0%)、「エコポイント対象製品の購入」(20.0%)が他の年代をやや上回っています。
- 世帯年収別に『利用・購入経験率』を見ると、「高速道路通行料 1,000 円での利用」は600万円未満が他の層を上回っていますが、その他の項目はいずれも800~1,000万円未満が他を上回っています。

8. 今年購入した中で最も高額なもの

「パソコン」(30件)「薄型テレビ」「車」(各25件)がトップ3。

表6. 今年購入した中で最も高額なもの

順位	購入したもの	件数
1	パソコン	30
2	薄型テレビ	25
"	車	25
4	海外旅行	12
"	洗濯機	12
6	冷蔵庫	10
"	バッグ	10
8	家具	9
"	衣類	9
10	カメラ	8
11	家	6
12	ビデオカメラ	5
13	掃除機	4
14	ブルーレイレコーダー	3
"	エアコン	3
"	車のタイヤ	3
"	自転車	3
"	宝飾品	3

不況の中、サラリーマン世帯ではどのような高額のものを購入しているのでしょうか。今年購入したものの中で最も高額なものをあげてもらいました。

最も多いのは「パソコン」(30件)で、次いで「薄型テレビ」「車」(25件)の順となっています。以下、「海外旅行」「洗濯機」(各12件)、「冷蔵庫」「バッグ」(各10件)などがあげられており、上位には家電製品が多くなっています。

9. お金で買えない大切にしているもの

「家族」(247件)、「子ども」(60件)、「夫」(19件)がトップ3。

表7. お金で買えない大切にしているもの

順位	大切にしているもの	件数	順位	大切にしているもの	件数
1	家族	247	"	人との絆	6
2	子ども	60	10	思い出	5
3	夫	19	"	旅行の思い出	5
4	友だち・友情	10	"	ペット	5
5	家族の健康・命	8	13	子どもと過ごす時間	4
6	親	7	"	愛情	4
"	自分の時間	7	15	思いやり	3
8	家族との時間	6	"	時間	3

主婦が、お金で買えないもので最も大切にしているものは何か、聞いてみました。

「家族」(247件)が圧倒的に多く、次いで「子ども」(60件)、「夫」(19件)が続いており、“家族”がトップ3を占めています。また、「親」(7件)や「家族の健康・命」(8件)もあげられており、家族や身内を大切に思う人が多いようです。

さらに、「友だち・友情」(10件)、「人との絆」(6件)、「愛情」(4件)、「思いやり」(3件)といった人を思いやる“心”も多くあげられています。

そのほか、「自分の時間」(7件)、「家族との時間」(6件)、「子どもと過ごす時間」(4件)、「時間」(3件)といった“時間”や、「思い出」(5件)、「旅行の思い出」(5件)などもあげられています。

10. 主婦が憧れる（今なってみたい）職業

「医師」（30件）、「キャビンアテンダント」（23件）が突出。

表 8. 主婦が憧れる（今なってみたい）職業

順位	職業	件数
1	医師	30
2	キャビンアテンダント	23
3	お店のオーナー業	12
4	通訳・翻訳業	10
"	作家	10
6	看護師	9
7	薬剤師	8
"	歌手	8
9	芸能人	7
10	女優	6
"	弁護士	6
"	公務員	6

主婦はどのような職業に憧れているのでしょうか。年齢や資格の有無などを一切考慮せず、今なってみたい職業を自由にあげてもらいました。

最も多いのは「医師」（30件）で、次いで「キャビンアテンダント」（23件）の順となっており、この2つが突出しています。

医療分野では、ほかに「看護師」（9件）、「薬剤師」（8件）なども上位にあげられています。

また、「お店のオーナー業」（12件）や、「通訳・翻訳業」「作家」（各10件）、「弁護士」（6件）といった職業や、「歌手」（8件）、「芸能人」（7件）、「女優」（6件）などの職業が憧れの的のようです。